

有 價 證 券 內 譯

四三三

備 考	備	入 收 用 運	利 子	高 價	殘 價	券 額	何 額	何 額	還 額	債 額	扣 額	賣 額	入 額	購 額	高 價	越 額	利 率	摘 要
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	何
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	何
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	何
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	何
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計

○賣却ノ分ハ其ノ價格ヲ備考ニ附記ス

○殘高保管ノ方法、運用收入計算ノ基礎並其ノ歲入所屬年度

ヲ備考ニ附記ス

【備考】

第六號

大 正 何 年 度

何 年 何 月 分

國 債 增 減 計 算 書

證 憑 書 何 冊

何 令

職 官 氏 名 印

年 月 日 提 出

【備考】

大正何年度(何年月分)(自何年月日至何年月日)

歲入 歲出 外

現金出納計算書

證憑書何冊

何々ノ

應名

職官氏名印

年月日提出

摘要	前年度拂	本年度領	計	拂 込	拂 込	備 考
	込未済額	收 済 額		済 額	未済額	
一 般 會 計	0	0	0	0	0	○前任官吏ヨリ引繼ヲ受ケタルモノアルトキハ本年度領收済額ニ併算シ備考ニ其ノ金額事由ヲ附記スヘシ
何 年 度 計	0	0	0	0	0	
何 年 計	0	0	0	0	0	
何 特 別 會 計						
(一般會計ノ例ニ依フ)						
合 計	0	0	0	0	0	
拂込未済額區分						
主任收入官吏官氏名					0	
某所分任收入官吏官氏名					0	
某所分任收入官吏官氏名					0	
計					0	

受高	摘要	拂高	備	考
0	前年度ヨリ越	0		○分任出納官吏又ハ出納員ハ本書式ニ依ルヘシ
0	資 金	0		
0	過 超 金	0		
0	何 々 々	0		
0	計	0		
0	郵便爲替金	0		
0	郵便貯金	0		
0	國庫金	0		
0	何 々 々	0		
0	翌年度へ越	0		
0	計	0	越高分	
0	合計	0	分任出納官吏某何圓 出納員某何圓	

歳入金日本銀行=拂込済額

摘要	越 高	領收高	計	拂込高	残 高	備	考
遞信省所屬歳入金							○ ○ シ並高振 モ貨拂替 ノ受込計 アルノ算 ト貨高ヲ キ幣區以 ハ換ヲテ ハ算現整 拂差金シ 込減及振 高ノ金等 次ノ差普 ニ區分 相當整 區理ヲ ヲ爲シ タ
何 年 度	0	0	0	0	0		
何 年 度	0	0	0	0	0		
計	0	0	0	0	0		
何省所屬歳入金							
何 年 度	0	0	0	0	0		
何 年 度	0	0	0	0	0		
計	0	0	0	0	0		
何特別會計歳入金 (前例ニ依テ)							
總計	0	0	0	0	0		

大正何年度(自何年月日
至何年月日)

繰 替 拂

現金出納計算書

証憑書何冊

何 々 /

遞信官署名

職官氏名印

年月日提出

摘要	受高	摘要	拂高	備	考
過超金受領高	0	資金交付高	0		
切手貯金代金受高	0	日本銀行歳入拂込高	0		
何 々 々	0	何 々 々	0		
計	0	計	0		
越 高	0	残 高	0		
合計	0	合計	0		

摘要	受之									
	越 高		買 入		生産(復生)		保管轉換		賣出(修理)増	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
据置運轉資本之部 材 料 素 屬										
何々々々	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 0	0
何々々々	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 0	0
價額計	0		0		0		0		0	
生 産 品										
何々々々	0	0			0	0	0	0	△ 0	0
何々々々	0	0			0	0	0	0	△ 0	0
價額計	0		0		0		0		0	
價額合計	0		0		0		0		0	
固定資本之部 (据置運轉資本ノ) 例ニ依テ										
資本外之部 (据置運轉資本ノ) 例ニ依テ										
價額總計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

部		拂									
何々	計	消 耗		生産ノ爲		賣		拂		亡失	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

之 部		現 在		備 考
何々	計	供 用	在 庫	
數量	價額	數量	價額	
0	0			
0	0			
0	0			
0	0			
0	0			
0	0			
0	0			
0	0			
0	0			

○作業、鐵道、海軍工廠資金所屬、其ノ他事業用
物品ノ類ハ本書式ニ依ルヘシ

資 本 地 金 (資 本 外 地 金)

摘 要	受 入				拂 出				現 在 備 考
	越 前 日 價 額	受 入 價 額	差 増 額	計 價 額	地 金 價 額	移 換 價 額	差 減 額	計 價 額	
金地金(純) 九 百 位 量)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金地金(純) 八 百 位 量)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銀地金(純) 八 百 位 量)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銀地金(純) 九 百 位 量)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銅地金(純) 九 百 位 量)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銅地金(純) 八 百 位 量)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銅地金(純) 九 百 位 量)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
何	0	0	0	0	0	0	0	0	0
價 額 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0

〔釋法〕

第十一號

大正何年度(自何年何月至何年何月)

國 有 財 產
增 減 計 算 書

證 憑 書 何 冊
何 々 々

應 名
職 官 氏 名 印
年 月 日 提 出

〔釋法〕

振替金受入未決算高

受入統轄店名		拂出統轄店名	金額	備考
本	店	何	0	
何	支	地	0	
	店	支	0	
		店	0	
		代理	0	
		店	0	
		何	0	
		計	0	

國庫金

摘要	越	受	拂	残	備考
<u>何年度各會計勘定</u>					
一般會計	0	0	0	0	
國債整理基金	0	0	0	0	
專賣局	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
<u>特別勘定</u>					
大藏省證券發行高	0	0	0	0	
預託金	0	0	0	0	
振替金	0	0	0	0	
隔地拂資金	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
<u>現在高勘定</u>					
當座預金	0	0	0	0	
別口預金	0	0	0	0	
指定預金	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

有 價 證 券

摘 要	越	受	拂	殘	備 考
<u>政 府 所 有</u>					
公 債 證 書	0	0	0	0	
株 券 證	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
<u>政 府 保 管</u>					
公 債 證 書	0	0	0	0	
何	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
合 計	0	0	0	0	

振 替 金 拂 出 未 決 算 高

拂出統轄店名	受入統轄店名	金 額	備 考
本 地 支 店	何 地 支 店	0	
何	何 地 代 理 店	0	
	何	0	
	計	0	

第十三號

大正何年度
 何年何月分
 日本銀行本店
 又ハ日本銀行何地支店
 又ハ日本銀行何地統轄代理店
 國庫金出納及政府有價證券受拂計算書

日本銀行總裁氏名印
 年月日提出
 又ハ日本銀行何地支店(日本銀行何地統轄代理店)印
 年月日提出
 日本銀行總裁氏名印
 年月日提出

【備考】

摘要	受		拂		残	備	考
	本月分	前月迄	計	計			
高橋定高	0	0	0	0	0	○種目毎ニ前年度ヨリ繰越整理ヲ爲スモノハ四月分計算書ニ於テ種目毎ニ前月迄ノ區ニ其ノ繰越高ヲ記載ス種目毎ニ繰越ヲ爲ササルモノハ其ノ受拂差引高ヲ前年度ヨリ繰越ニ記載ス ○七月分以降ノ計算書ニハ前年度所屬各會計勘定ノ残高ヲ前年度ヨリ繰越ニ併算ス 四六一	
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		
高橋金庫局貯費	0	0	0	0	0		

何 年 度

取扱店	所管廳	支出官	支 拂 高						支 拂 未 済 高									
			本 月 分		前 月 迄		計											
			歳 出	歳 出 外	歳 出	歳 出 外	歳 出	歳 出 外										
本店又ハ 何地代理 何地代理 店	何	省	職	名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
"	"	"	何	々	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

〔棒法〕

何 會 計

備 考	支 拂 高 ノ 内 隔 地 拂 資 金 受 拂							未 拂 高	備 考
	受 高		拂 高		計		未 拂 高		
	本 月 分	前 月 迄	本 月 分	前 月 迄	計				
○七月以降ノ計算書ニ對シ前年度所屬ノ歳出ニ付本欄ヲ附スル場合ニ於テハ支拂高、支拂未済高及備考ノ區ヲ省略スルコトヲ得	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	

〔棒法〕

郵便局過超金受入(郵便局資金拂出)

取扱店	郵便局	金額	備考
本店又ハ何地支店	何地郵便局	0	
何地代理店	何々	0	
	計	0	

振替金受入

拂出統轄店	摘要	金額	備考
本店	外國送金	0	
何地代理店	"	0	
	計	0	
何地支店	何々 (前例=依フ)		
	合計	0	

歳出支拂未済繰越金

取扱店	年度	所管廳	支出官	越	受	拂	残	備考
本店又ハ何地支店	何年度	何省	職名	0	0	0	0	○本欄ハ本店及京城、臺北、大連各代理店ノ 計算書ニ附スヘシ
"	何年度	何省	職名	0	0	0	0	
何地代理店	何年度	何省	職名	0	0	0	0	
			計	0	0	0	0	

郵便局過超金(郵便局資金)

摘要	前月ヨリ越 代リ金交付 (領收)未済額	各取扱店ヨ リ報告額	代リ金交付 (領收)額	代リ金交 付(領收) 未済額	備考
何年何月分	0	0	0	0	○本欄ハ本店及京城、臺北、大連各代理店ノ 計算書ニ附スヘシ
何年何月分	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	

小 額 紙 幣 引 換 準 備

第九類 財務 第一章 會計	摘 要	越		受		拂		残		備考
		原貨	邦貨	原貨	邦貨	原貨	邦貨	原貨	邦貨	
	日本銀行兌換券		0		0		0		0	○金塊及銀塊ハ其ノ數額ヲ原貨ノ區ニ記載スヘシ
	金 塊	0	0	0	0	0	0	0	0	
	銀 塊	0	0	0	0	0	0	0	0	
	貨幣拂渡證書		0		0		0		0	
	補助貨		0		0		0		0	
	英 貨	0	0	0	0	0	0	0	0	
	米 貨	0	0	0	0	0	0	0	0	
	佛 貨	0	0	0	0	0	0	0	0	
	何 々	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計		0		0		0		0	

振 替 金 拂 出

受入統轄店	摘 要	金 額	備 考
何地支店	購入公債代金	0	
何地代理店	"	0	
	計	0	
何地支店	何 々 (前例=倣フ)		
	合計	0	

大藏省證券、借入金、國庫餘裕金繰替、何々

摘 要	越	受	拂	残	備 考
何年度大藏省證券					
一般會計	0	0	0	0	
何特別會計	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
何年度借入金					
一般會計	0	0	0	0	繰入ハ何銀行又ハ何會計ヨリ何 國庫餘裕金繰替ハ何々ヘ何國
何特別會計	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
國庫餘裕金繰替					
何 々 へ 貨	△0	0	0	△0	
何 々 へ 貨	△0	0	0	△0	
計	△0	0	0	△0	
何 々 (前例=倣フ)					

内地指定預金

第九類 財務 第一章 會計	摘要	金種別	越 受 拂 残				備考
			圓	圓	圓	圓	
	一般會計						
	何銀行へ預入	銀地金	0	0	0	0	
	何会社へ貸付	何々	0	0	0	0	
	何々	何々	0	0	0	0	
	計		0	0	0	0	
	何特別會計						
	何会社へ貸付	何々	0	0	0	0	
	何々	何々	0	0	0	0	
	計		0	0	0	0	
	合計		0	0	0	0	

當座預金

第九類 財務 第一章 會計	摘要	越 受 拂 残				備考
		圓	圓	圓	圓	
	一般會計					
	無利子	0	0	0	0	
	有利子	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	
	預金部特別會計					
	無利子	0	0	0	0	
	有利子	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	
	何特別會計					
	無利子	0	0	0	0	
	有利子	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	

○本欄及別口預金、指定預金ノ各欄ハ本店ノ調製
スル計算書ニ附スヘシ

別口預金

第九類 財務 第一章 會計	摘要	越 受 拂 残				備考
		圓	圓	圓	圓	
	金地金(銀地金)					
	一般會計	0	0	0	0	
	何特別會計	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	
	大正七年軍用手票	0	0	0	0	
	軍用切符	0	0	0	0	
	何々					
	(前例ニ依フ)					
	合計	0	0	0	0	

大正何年度

何年何月分

國債ノ發行=依ル收入金受拂明細書

日本銀行總裁氏名印
年月日提出

【備考】

募 集 金

摘要	要			拂			残	備	考
	本月分	前月迄	計	本月分	前月迄	計			
何年發行何公債(轉回何公債)	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓		
第幾期子	0	0	0	0	0	0	0		
第幾期利息	0	0	0	0	0	0	0		
第幾期延滞	0	0	0	0	0	0	0		
第幾期何	0	0	0	0	0	0	0		
計	0	0	0	0	0	0	0		
合計	0	0	0	0	0	0	0		

本月分受取ノ内何回ハ、海軍省預金ヨリ振替
何々

○同種ノ公債ト雖、募集ノ時期方法等、異なるモノハ別廉
○ニ記載スヘシ應募保證金ノ額亦同シ
○本月分受取及拂高ハ、當月ノ日本銀行本店ニ於テ處理
シタル金額ヲ又前年度未ニ於ケル殘高ハ、年々於テ處理
シ書ノ受取前月迄ノ區ニ掲記スヘシ應募保證金ノ額亦
同シ

摘要	額面	拂込 へキ額	拂込額	未拂 込額	備考
何年發行何公債(第何回何公債)					
第何期拂込延滞ノ爲失效					
申込價格何程ノ分	0	0	0	0	
申込價格何程ノ分	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
何 證 券					
第何期拂込延滞ノ爲失效					
申込價格何程ノ分	0	0	0	0	
申込價格何程ノ分	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	

大正何年度

何年何月分

國債元利拂資金受拂明細書

第十六號

日本銀行總裁氏名印
年月日提出

應募保證金

摘要	受			拂			残	備考
	本月分	前月迄	計	本月分	前月迄	計		
何年發行何公債(第何回何公債)	0	0	0	0	0	0	0	
何 證 券	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	

大正何年度

何年何月分

國債應募拂込金延滞ニ因ル失效高明細書

第十五號

〇拂ノ部本月分ニ付テハ拂込金ニ振替、
還付及時効完成ノ爲テハ入ニ納付等ニ區
分シ其ノ金額ヲ備考ニ附記スヘシ

日本銀行總裁氏名印

年月日提出

摘要	受			拂			残	備	考
	本月分	前月迄	本月納額	本月分	前月迄	本月收額			
何年度									
何經常部									
何々々(款)									
何々々(項)									
何々(目)									
何年何月分									
何年何月分									
何年何月分									
計	0	0	0	0	0	0	0		
何々(目)									
(前例=效フ)									
合計	0	0	0	0	0	0	0		

○本月分拂高ハ當月日本銀行本店ニ於テ處理シタル金額ヲ掲記ス
 ○年度、科目共ノ他ノ更正ヲ爲シタルトキハ備考ニ金額事由ヲ附
 記スヘシ

【備考】

國債元金支拂濟否内譯

摘要	時效完成期	支拂決定額	支拂濟額	銷却差増減	時效完成ニ因 ル支拂不要額	支拂未濟額	備	考
何公債								
何年月日當籤	何年月日	0	0	0	0	0		
何年月日償還	何年月日	0	0	0	0	0		
何年月日買入銷却		0	0	0	0	0		
何證券								
何年月日償還	何年月日	0	0	0	0	0		
合計		0	0	0	0	0		

○本欄ハ各年度所屬ノ支拂證明完結ノ月ニ限リ之ヲ掲載スヘシ
 ○支拂決定額ノ區ニハ既往年度ニ於ケル支拂未濟額及本年度中支
 拂ヘキ額ヲ掲記スヘシ

【備考】

何年度歳入金(何年度何會計歳入金)

所管廳	取扱廳	收入額		計	備	考
		相當年度	年度後			
何省	何廳	0	0	0		
何省	何廳	0	0	0		
	計	0	0	0		

○年度開始前ノ歳入ハ相當年度ノ區ニ併算シ備考ニ其ノ金額ヲ附記スヘシ

何年度歳出金(何年度何會計歳出金)

所管廳	支出官	經常部 臨時部 ノ區分	款	項	支拂額		支拂 未済額	計	備考
					相當年度	年度後			
何省	職名	經常	何々	何々	0	0	0	0	
			何々	何々	0	0	0	0	
			何々	何々	0	0	0	0	
		臨時	何々	何々	0	0	0	0	
			計		0	0	0	0	
何省	職名	經常	何々	何々	0	0	0	0	
			合計		0	0	0	0	

○年度開始前ノ歳出ハ相當年度ノ區ニ併算シ備考ニ其ノ金額ヲ附記スヘシ

證憑書未提出高

摘要	前月迄	本月	本月	本月末	備考
	未提出高	支拂高	提出高	未提出高	
何々(款)					
何々(項)					
何々(目)					
何年何月分	0	0	0	0	
何年何月分	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
何々(目)					
(前例ニ依フ)					
合計	0	0	0	0	

大正何年度

日本銀行本店

又ハ日本銀行何地支店

又ハ日本銀行何地統轄代理店

歳入金歳出金出納明細書

日本銀行總裁氏名印

年月日提出

又ハ日本銀行何地支店(日本銀行何地統轄代理店)印

年月日提出

日本銀行總裁氏名印

年月日提出

大正何年度 (自何年月 至何年月)
收支計算書

證憑書 何冊
何々 /

應 名(何々)
職 官(何々)氏名印
年 月 日 提出

收 入

摘 要	調定済額	収入済額	不 納		備 考
			缺 損 額	收 入 未 済 額	
經 常 部					
何々(款)					
何々(項)					
何々(目)	0	0	0	0	
何々(目)	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
何々(款)					
何々(項)					
何々(目)	0	0	0	0	
經常部計	0	0	0	0	
臨 時 部					
(前例ニ依フ)				0	
總 計	0	0	0	0	

[棒法]

支 出

摘 要	豫 算 額		計	支出額	翌年度へ 繰越額	不用額	備 考
	本年度分	前年度 繰越額					
經常部							
何々(款)							
何々(項)							
何々(目)	0	0	0	0	0	0	
何々(目)	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	
何々(款)							
何々(項)							
何々(目)	0	0	0	0	0	0	
經常部計	0	0	0	0	0	0	
臨 時 部							
(前例ニ依フ)							
總 計	0	0	0	0	0	0	

○關東州地方費、朝鮮地方費、臺灣地方費、仲羅縣地方費ノ類ハ本書式ニ依ルヘシ
○土木、道路、砂防、水道、港灣各補助費ノ類ハ本書式ニ準シ收入ノ部ニ於テ摘要ヲ前年度繰越金、國庫補助金、地方收入、府縣(市町村)債等ニ區分スヘシ
○前項ノ證明ニ付テハ國庫補助金ハ受ケ入タル年月日、數年ニ跨リ竣工スヘキ事業及繼續費ハ其ノ豫算總額並ニ前年度迄ノ支出額ヲ備考ニ附記スヘシ

[棒法]

科目	借			貸			備考
	前期	当期	期末	前期	当期	期末	
資本勘定	0	0	0	0	0	0	
株主勘定	0	0	0	0	0	0	
未償債	0	0	0	0	0	0	
株立	0	0	0	0	0	0	
定額	0	0	0	0	0	0	
株持法社何	0	0	0	0	0	0	
所有物勘定	0	0	0	0	0	0	
船舶何	0	0	0	0	0	0	
定額	0	0	0	0	0	0	
船舶何	0	0	0	0	0	0	
貸借部	0	0	0	0	0	0	
銀行	0	0	0	0	0	0	
預銀何	0	0	0	0	0	0	
担當	0	0	0	0	0	0	
鐵道	0	0	0	0	0	0	
鐵道何	0	0	0	0	0	0	
何	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	

○南滿洲鐵道株式會社ハ本書式ニ依ルシ

摘要	金額	備考
資本勘定		
株主勘定	0	
拂込未済資本金	0	
貸付金勘定	0	
定期償還貸付金	0	
何々	0	
預ケ金勘定	0	
別口當座預ケ金	0	
何々	0	
所有物勘定	0	
地所	0	
何々	0	
土木勘定	0	
何々	0	
何々	0	
計	0	
収益勘定		
俸給及諸給	0	
營業費	0	
事業費	0	
利息	0	
計	0	
合計	0	

收入

摘要	金額	備考
資本勘定		
株金拂込高々	0	
何々	0	
計	0	
収益勘定		
運輸收入	0	
客車收入	0	
旅客運賃	0	
何々	0	
貨車收入	0	
貨物運賃	0	
何々	0	
追次計	0	

○前年度ニ比シ著シキ増減アルモノハ其ノ事由ヲ備考ニ附記スヘシ
 ○雜入又ハ雜費等ノ科目ヲ以テ集計記載スルモノアルトキハ其ノ主ナルモノノ種類及金額ヲ備考ニ附記スヘシ
 ○數區間ニ區分シテ整理スルトキハ區間毎ニ調整シ更ニ項ノ金額ニ付總括ヲ附スヘシ、補助ヲ受タル區間ニ區間以上ナルトキハ地方鐵道補助法施行規則第六條ノ規定ニ依リ通算スヘキ區間ニ付亦同シ
 ○當期決算額ニ付テハ其ノ事由ヲ備考ニ附記スヘシ
 ○營業收入ヲ以テ新設改良工事費、借入金利子及社債差損金等ヲ支出シタルトキハ之ヲ營業費ニ計上セス欄外ニ記載スヘシ

〔掃法〕

貸方

摘要	金額	備考
資本勘定		
株主勘定	0	
資本金	0	
前期繰越金々	0	
何々	0	
債券勘定	0	
東洋拓殖債券發行高	0	
未決算勘定	0	
假受金々	0	
何々	0	
保證金勘定	0	
契約保證金々	0	
何々	0	
何々	0	
何々	0	
計	0	
収益勘定		
補給金	0	
貸付金利息	0	
預ケ金利息	0	
事業收入	0	
諸收入	0	
計	0	
合計	0	

○東洋拓殖株式會社、株式會社朝鮮殖産銀行ハ本書式ニ依ルヘシ

〔掃法〕

收入

摘要	金額		備考
	前期末	當期	
收益勘定前業計	0		
雑収入	0		
車輛使用料	0		
何々	0		
雑収入	0		
預々金利息	0		
何々	0		
關聯營業收入分擔額	0		
計	0		
合計	0		

支出

摘要	金額			備考
	前期末	當期	計	
資本勘定				
測量及監督費	0	0	0	
俸給	0	0	0	
旅費	0	0	0	
何々	0	0	0	
用地費	0	0	0	
線路用地	0	0	0	
何々	0	0	0	
土工費	0	0	0	
收取	0	0	0	
何々	0	0	0	
何々	0	0	0	
何々	0	0	0	
總係費	0	0	0	
何々	0	0	0	
各事業關聯興業費分擔額	0	0	0	
建設營業關聯費分擔額	0	0	0	
計	0	0	0	
收益勘定				
保存費		0	0	
監督費		0	0	
俸給		0	0	
何々		0	0	
工事費		0	0	
何々		0	0	
追次計		0	0	

○鐵道補助ハ本書式ニ依ルヘシ

摘要	收入額	支出額	備考
何 航 路	圓 0	圓 0	○航路、航海、朝鮮ニ於ケル金融組合補助費ノ類ハ本書式ニ依ルヘシ
何 航 路	0	0	
計	0	0	

摘要	收入額	摘要	支出額	備考
前年度越高	圓 0	何 給 與 金	圓 0	○現業員共済組合ノ類ハ本書式ニ依ルヘシ
政府給與金	0	何 *	0	
現業員ノ掛金	0	翌年度へ繰越	0	
現業員以外ノ掛金	0			
利息	0			
何 *	0			
計	0	計	0	

支 出

摘要	金額			備考
	前期末	當 期	計	
收益勘定				
前葉計		0	0	
動力費		0	0	
監督費		0	0	
何 *		0	0	
何 *		0	0	
各事業關聯營業費分擔額		0	0	
建設營業關聯費分擔額		0	0	
計		0	0	
合計	0	0	0	

郵便電信收入

摘要	金額	備考
切手類賣下代	0	
何局	0	
何局	0	
計	0	
郵便收入	0	
約束郵便料	0	
何*	0	
計	0	
電信收入	0	
海外電報料	0	
何*	0	
計	0	
電話收入	0	
電話使用料	0	
電話交換料	0	
何*	0	
計	0	
合計	0	
前年度ノ調定不足額	0	
前年度ノ收入未済額	0	
調定超過額	0	
調定外誤納額	0	
計	0	
前年度收入未済並年度繰越額	0	
調定不足額	0	
計	0	
調定済額	0	

証憑書代用明細書

備考

- 一 郵便電信收入ノ書式ニ示セル前年度調定不足額以下ノ記載例ハ各書式ニ適用スヘシ
- 二 翌年度四月三十日迄ニ調定過不足ヲ發見シタルトキハ追徴又ハ還付ヲ爲シタルト否トヲ問ハス事項毎ニ正當額ヲ掲記シ其差額ハ調定超過額又ハ調定不足額ニ計算スヘシ
- 三 前年度繰越收入未済額ニシテ本年度中收入ヲ了シ若ハ缺損處分ヲ爲シタルモノハ調定済額ノ備考ニ其ノ金額ヲ區分掲記スヘシ

官・有物貨下料

摘要	數量	金額	備考
土地	增	圓	
何年四月一日現在			
市街宅地			
一等地	0	0	
二等地	0	0	
何々	0	0	
部落宅地	0	0	
未開地			
市街地附近	0	0	
何々	0	0	
特種料金地	0	0	
何々	0	0	
計	0	0	
増之部 (前例=做フ)			何月々分
減之部 (前例=做フ)			
増減差引計	0	0	
一時貸下地	0	0	

一増減ニ對シテハ其ノ事由及金額ヲ備考ニ附記スルコト

(繰法)

鐵道收入

摘要	金額	備考
客車收入	圓	
旅客賃金	0	
何々	0	
計	0	
貨車收入		
貨物賃金	0	
貨切車賃金	0	
何々	0	
計	0	
連帶運輸收入	0	
雜收入		
入場料	0	
何々	0	
計合計	0	

水産試験場收入

摘要	數量	單價	金額	備考
生魚		圓	圓	
鮭	0	0	0	
蟹	0	0	0	
鱈	0	0	0	
其他				
計			0	
製造品				
何々罐詰	0	0	0	
何々燻製	0	0	0	
其他				
計合計			0	

(繰法)

大 正 何 年 度

歲 入 徵 收 額 計 算 書 附 屬 明 細 書

廳 名

漁 業 料

摘 要	漁 業 料			備 考
	漁 業 料	副 網 料	合 計	
	圓	圓	圓	
定 置 漁 業	0	0	0	
土 人 定 置 漁 業	0	0	0	
專 用 漁 業	0	0	0	
計	0	0	0	

地		稅			備	考
摘	要	坪數	地價	稅額		
二級 (前例=倣フ)			圓	圓	圓	
	計	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	
増減差引計						
一級		0	0	0	0	
二級		0	0	0	0	
既往=通り賦課						
一級		0	0	0	0	
何々		0	0	0	0	
何々		0	0	0	0	
	計	0	0	0		
二級 (前例=倣フ)						
	計	0	0	0		
	合計	0	0	0		
前年度調定不足額				0		
" 收入未済額				0		
調定超過額				0		
調定外誤納額				0		
稅額計				0		
調定不足額				0		
前年度收入未済翌年度繰越額				0		
	計			0		
調定済額				0		

地		稅			備	考
摘	要	坪數	地價	稅額		
市街宅地稅			圓	圓	圓	
何年四月一日現在						
一級		0	0	0		
二級		0	0	0		
	計	0	0	0		
増之部						
一級						
何年何月地價修正			0	0	0	
何年何月道路用地廢止			0	0	0	
既往=係ル本年分			0	0	0	
何々		0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	
二級 (前例=倣フ)						
	計	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	
減之部						
一級						
何年何月地價修正			0	0	0	
何年何月道路成			0	0	0	
何々		0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	

大正何年度

何々費 (豫算ノ款項)

電信電話工事

竣工報告書

名

- 一 臨時部支辨工事ハ各工事全體ヲ合計シテ掲上スルコトヲ得
- 二 竣工報告書ニハ各工事毎ニ工事要領書ヲ添附スヘシ
- 三 工事竣工高ト支出済額又ハ支拂額ト符合セサルトキハ其ノ事由ヲ明ニセル説明書ヲ添附スヘシ

貸付金

摘要	貸付金				調定額	備考
	前年度 超過	増	減	翌年度 超過		
定期貸金						シ 當該年度内調定ノ有無ニ拘ラス貸付金存在スルトキハ毎年度之ヲ提出スヘシ増減ニ對シテハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ
何々何某	0	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
据置貸金						
何々何某	0	0	0	0	0	
何々	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	

考 備 年 起 竣 功 日	殘 高	功 度 分						合 計	前 年 度 勞 力	前 年 度 材 料	機 械	工 事 費	摘 要	設 計 高		
		計	維	機	器	材	勞							計	減	增
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	何々工事	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	"	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	"	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	"	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	"	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	"	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計	0	0	0	

〔繰法〕

市内電話工事要領書

命 令 書 番 號 及 日 期	何 々	工 事 名 目	何 々	起 工 年 月 日	何 々	竣 工 年 月 日	何 々	局 内 裝 置	何 々	新 設 加 入 者 數	何 々	線 路 架 空 架 空 線	何 々	里 程 架 空 架 空 線	何 々	本 柱 數	何 々	支 柱 數	何 々	支 線 數	何 々	共 同 支 線	鐵 管			
								何交換機何臺、何回線分線盤何臺ヲ新(増)設シ信號裝置ニハ何々ヲ使用スル等局内工事ノ大要ヲ記入スヘシ		單獨何名共同何名連接何名加入者機械増設何個何名加入種類變更アリタルトキハ其ノ要領		互長新設何程延長何程内何々線何程内現場撤去品何々線延長何程直ニ使用		互長新設何程延長何程内何々線何程外豫備何々線延長何程使用	(記載方前欄ニ準ス)但シ豫備管路ニ收容シタルモノアルトキハ其ノ延長釋程ヲ記入スヘシ		普通柱何程H(又ハA)柱何程合計何程内譯丹碧又ハ「クレオソード」注入(又ハ不注入)新柱何程再用柱何程		何程内譯(前欄ニ準シ區別スヘシ)		此線延長何程		百七十磅七箇燃鋼線延長何程四百磅鐵線延長何程		何條新設里程何程何條新設里程何程内何々管里程何程外豫備管ニ設ケタルトキハ何々管里程何程	

〔繰法〕

設計豫算高			工 事 名	設 計 要 領
豫算高	増 減	現 計		
圓	圓	圓		
			何々築港工事	構造何々岸壁延長何間上家何
			海岸設備工事	棟何坪其他設備何々噸ノ船
			何々築造	船何隻ヲ繫留セシム等
			何々	構造何々其他何々ニシテ何々
			計	ノ目的ニ供スル等
				何々
			浚 深 工 事	港内何々ヲ干潮面下何尺ニ浚
			何 掘 鑿	深乃效水面何坪等
			何 々	何々岩礁ヲ又ハ何箇所ヲ干潮
			計	面下何尺ニ除去等
			合 計	何 々
			何々廳舎新營工事	構造何々坪數何々等
			本 館 工 事	何 々
			基 礎 工 事	
			煉 瓦 工 事	
			何 々	
			計	
			何 々 工 事	
			何 々	
			計	
			合 計	

大正何年度

何 々 費 (款)

何 々 費 (項)

何 々 工 事

竣 功 報 告 書

應 名

第九類 財務 第一章 會計

六 本年度竣工高ト支出済高ト符合セサルトキハ其ノ事由及金額ヲ詳記スヘシ

七 設計及竣工要領並ニ備考ニ記載スヘキ事項ニシテ複雑ニ渉ルモノハ説明書ヲ添附スヘシ

●物品及歳入歳出外現金出納計算ノ検査委託及委託検査取扱順序

大正三年二月送第二〇八號
會計検査院長通達

會計検査院ハ會計検査院法第十六條ニ依リ大正二年度以降左記現金及物品出納計算ノ検査及責任解除ヲ樺太廳ニ委託ス

一、物品

但左記各項ヲ除ク

- (一) 樺太廳内務部通信課及郵便局ノ郵便切手額收入印紙
- (二) 各廳ノ工事材料
- (三) 樺太廳水産試験場ノ素品、製品
- (四) 樺太廳豐原乾糧工場ノ素品、製品

二、歳入歳出外現金

右委託検査ニ係ル責任解除及検査成績報告順序ハ左ノ如シ

委託検査取扱順序

- 一、計算書ニ對シ全部正當ト判決シタルトキ又ハ辨償ノ責任アリト判決シ其ノ辨償ヲ了シタルトキハ出納官吏ニ對シ第一號書式ニヨリ認可狀ヲ交付スルコト
- 二、検査ノ成績ハ第二號書式ニ依リ年度經過後八ヶ月以内ニ會計検査院ニ報告スヘシ若シ期限ニ至リ検査未了ニ係ルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ報告シ爾後終了ニ從ヒ其ノ成績ヲ報告スルコト

- 三、會計検査院法第二十四條ニ依リ再審事項アルトキハ其事由ヲ詳記シタル申報書ニ關係書類ヲ添付シ直ニ會計検査院ニ提出スルコト
- 四、物品會計規則第十八條ノ二ニ依リ帳簿ヲ以テ證明セシメタル場合ニ於テハ検査官吏該帳簿ノ末尾ニ検査済ノ旨及其ノ年月日ヲ記入シ署名捺印スルコト

第一號書式

認可狀

何 廳 官 氏 名

一、大正何年度 自大正何年何月何日(證明事項) 至大正何年何月何日

會計検査院ノ委託ニ依リ前記證明計算ノ検査ヲ遂ケ茲ニ其責任ヲ解除ス

年 月 日 受託廳長 官 氏 名 印

第二號書式ノ甲

大正何年度歳入歳出外現金出納計算書検査成績報告書

廳名	證明者官氏名	管理期	受ノ部		佛ノ部		殘高	認可狀交付年月日
			計	計	計	計		

右検査ノ要領ヲ摘スルコト左ノ如シ

〔樺法〕

●郵便局出納官吏ノ出納計算ニ對スル検査等委託ニ關スル件

〔樺法〕

大正四年十月 送第一一三號會計検査院長通達

會計検査院ハ會計検査院法第十六條ニ依リ大正四年度以降左記現金出納計算ノ検査及責任解除ヲ樺太廳ニ委任ス

一、樺太廳郵便局ニ於ケル現金

但主任出納官吏ノ現金ヲ除ク

右委任検査ニ係ル責任解除及検査成績報告順序ハ大正三年二月二十七日送第二〇八號ノ通達

●物品出納計算ノ検査中工事材料品證明ニ關スル件

大正三年六月一日 收主第一五三號樺太廳長官照會

本年二月送第二〇八號ヲ以テ委託相成候物品出納計算ノ検査中「二各廳ノ工事材料」ハ除外サレ居候處右工事材料トハ鐵道及通信現業費若ハ營繕土木費支辨ノ直營工事材料ノミニテ修繕費支辨ニ屬スル材料品等ハ包含セサル義ト解スルヲ至當ト存候ヘ共一應御意見承知致度

大正三年六月十五日 送第一一七號會計検査院部長回答

- 一、審理ノ結果違法又ハ不當ト認メタルモノ何件其要領別紙ノ如シ
- 二、出納官吏辨償責任ニ關シ判決ヲ爲シタルモノ何件其要領別紙ノ如シ

右検査完了セリ依リテ茲ニ之ヲ報告ス

年 月 日 受託廳長 官 氏 名 印

會計検査院長宛

第二號書式ノ乙

大正何年度物品出納検査成績報告書

廳名	證明者官氏名	管理期	認可狀交付年月日

備考 帳簿ニ依リ検査シタルモノハ△ノ符ヲ第二段ニ附記スヘシ
右検査ノ要領ヲ摘記スルコト左ノ如シ

- 一、審理ノ結果違法又ハ不當ト認メタルモノ何件其ノ要領別紙ノ如シ
- 二、出納官吏辨償責任ニ關シ判決ヲ爲シタルモノ何件其ノ要領別紙ノ如シ

右検査完了セリ依リテ茲ニ之ヲ報告ス

年 月 日 受託廳長 官 氏 名 印

會計検査院長宛

第九類 財務 第一章 會計

本月一日付收主第一五三號ヲ以テ物品出納計算證明ノ件ニ付御照會ノ趣了承右ハ御見解ノ通ニ有之

委託検査ニ係ル各出納官吏ノ計算證明ニ對シ認可狀交付省略方ノ件

大正六年二月十日
主第一二五號樺太廳長官照會

委託検査ニ係ル各出納官吏ノ計算證明ニ對シ正當ト判決シタルトキ又ハ辨償ノ責任アリト判決シ其ノ辨償ヲ了リタル場合ニ在テハ形式ノ認可狀ヲ交付スヘキ規定ニ候得共大正五年度以降責任解除ノ分ハ樺太廳公布式ニ登載シ認可狀交付ヲ省略ノコトニ御承認ヲ得度此段及照會候也

大正六年四月五日
送第一二二號會計検査院長回答

受託検査ニ係ル各出納官吏ノ計算證明ニ對シ認可狀交付省略ノ件主第一二五號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御來意ノ通承認致候此段及回答候也

歳入徴収額計算書調製方ノ件

大正四年九月十日
發主第二四六號樺太廳長官照會

本年七月貴院達第一號計算證明規程ニ依レハ歳入徴収額計算書ハ租稅ト租稅外ト各別ニ調製シ前者ハ七月十日限り後者ハ五月三十一日迄ニ提出

ヲ要シ候處之ヲ各別ニ調製セムトスルトキハ計算書ニ記載スヘキ收入官吏ノ現金額收額及拂込額ヲ租稅ト租稅外トニ區別セサルヘカラサルモ現時ノ計算組織ニ於テハ其ノ區分容易ナラサルノミナラス本年勅令第九十五號ニ依リ郵便局ノ出納官吏ヲシテ振替計算ヲ以テ歳入金ノ受拂ヲ爲サシムルコトト爲リタル結果一層其ノ區分ニ困難ヲ來シ候ニ付從前ノ通一計算書ヲ以テ證明スルコトニ致シ度尙本島ハ内地ト異リ交通不便ニシテ到底所定ノ期間内ニ提出難致候ニ付八月二十日限提出ノコトニ御承認ヲ得度此段及照會候也

大正四年九月三十日
送第三八號會計検査院長回答

歳入徴収額計算書調製方及提出期間ノ件ニ付本年九月十日付發主第二四六號ヲ以テ御照會之趣了承前段計算書調製方ハ御來意之通後段提出期日之儀ハ承認難致候右及回答候也

諸計算書類保存期間ノ件

明治四十四年十月
送第七五號會計検査院長通牒

歳入歳出及物品等諸計算書類ノ儀今般二十箇年間保存ノ事ニ決定致候就テハ貴廳へ委託検査ニ係ルモノ有之候ニ付御通知及候尤モ右計算書ニ屬スル諸證書類ノ儀ハ是迄通十箇年間ニテ廢棄處分可致候此段爲念申添候

〔樺法〕

會計ニ關スル規定、通牒等報告方ノ件

明治四十五年七月
送第一三號會計検査院長照會

貴廳ニ於テ收入、支出、物品ノ出納並ニ給與等會計事項ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ從來ノ規定ヲ改正シ各部局一般ニ通牒ヲ發セラレタル場合ハ事ノ輕重ヲ別タス其都度御通知相成候様致度此段及照會候也

補助ヲ受クル會社ノ收支證明ニ關スル件

大正五年四月
送第二八二號會計検査院長通牒

拓殖費支辨ニ係ル補助ヲ受クル左記會社及海運業者ハ大正五年度ヨリ其ノ收支ヲ證明スヘキ旨各受命者へ御通達相成度

- 追テ海運業者ハ計算證明規程第百十三條第二項第三號ノ各航路別收支明細書(別紙書式ニ依リ)並ニ各受命者決算期首ニ於ケル命令航路用船舶艘數、噸數及現價格ヲ掲載セル調書ヲ添附セシメラレ度
- 一 樺太金融株式會社
- 一 樺太倉庫株式會社
- 一 樺太豐眞運輸株式會社

收支明細書

第九類 財務 第一章 會計

〔樺法〕

收入	運賃
	旅客運賃
	貨物運賃
	何
支出	貨物費
	貨物取扱費
	何
	旅客費
	旅客
	運賃割戻金
	貨物運賃割戻金
	何
船費	船員給料及手當金
	旅客、船員船費
	燃料
	何
店費	海陸施設費
	何
收支差引損金	

- 儲積立金
- 船舶減價償却金
- 何々
- 差引損益
- 航海補助金
- 差引損益

●税關物品検査委託ノ件

大正三年十二月
往第九六一四號大蔵大臣達

榊太郎

其應警部ニシテ税關官吏ヲ兼務スル者ノ保管ニ係ル税關物品ニ對シ當該
税關長ヨリ物品會計規則第十條ノ二及第十一條ノ検査ヲ委託シタルトキ
ハ其應ニ於テ検査ノ官吏ヲ命シ之ヲ執行シ税關ニ報告ノ件ヲ委託ス

●物品検査ニ關スル件

大正六年三月二十一日
應訓令第四號

關中及所屬官衙一般

物品會計規則第十條ノ二ノ規程ニ依リ物品ノ検査ヲ命セラレタル官吏ハ
物品會計官吏ノ保管ニ關スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査シ別記様式ノ物品

●物品出納證明ニ關スル件

大正五年十月五日
主第一三三五號榊太郎長官照會

物品會計官吏交替ノ場合ニ於ケル物品出納計算書ハ計算證明規程ニ依リ
交替後二箇月限之ヲ提出スヘキ義ニ候處當廳ニ委託検査ニ係ルモノニ對
シテハ交替ニ依ル計算書ヲ作製セス年度末ニ於ケル後任官吏ト連署ヲ以
テ一年度ヲ通シ證明シ得ルコトニ致度候條御承認相成度此段及照會候也
追テ出納計算書及證書類ニハ各其ノ管理期間ヲ記載シ其ノ區分ハ明
ニスル義ニ有之申添候

大正五年十月十四日
送第三八號會計検査院長回答

物品會計官吏交替ノ場合ニ於ケル物品出納計算證明ノ件主第一三三五號
ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御來意ノ通承認致候

検査調査ヲ調製シ検査終了後二十日以内ニ所屬廳長ヲ經テ之ヲ榊太郎
長官ニ提出スヘシ
左ニ掲タル事項ハ物品検査調査ノ備考欄又ハ別紙ニ之ヲ詳記スヘシ
一 現品ト帳簿ト符合セサルモノアルトキハ其ノ名稱數量及事由
二 保管證ニ依リ物品ノ現在ヲ確認シタルモノアルトキハ其ノ名稱及數
量
三 其ノ他必要ト認ムル事項
(別記)

物品検査調査書				備考
物品ノ名稱	稱呼	數	備	
		供用	在庫	保管物品中貸出ニ係ルモノハ供用欄ニ合算ス
			計	

右「何」年「何」月「何」日「何」廳「物品會計官吏」官氏名「ノ保管スル物品」ノ全部ヲ検査シ此ノ調査ヲ作ル
年 月 日

検査官 官氏 名印
物品會計官吏 官氏 名印

〔榊法〕

〔榊法〕

第二章 租稅

第一節 租稅

●樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件

明治四十年三月二十七日
法律第二十一號

改正 大九年七月法律一三號、一〇年三月七號、一一年三月二號、一二年三月二號、
號、昭二年三月一〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ於ケル租稅ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム(總、大、内、)
大臣副署)

第一條 樺太ニ於テハ左ニ掲ケル租稅ヲ賦課徵收ス

一 市街宅地稅

二 所得稅

三 營業收益稅

四 酒造稅

五 漁業稅

前項租稅ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ニ規定スルモノノ外租稅ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ
關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和二年法律第十號)

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條第一項第三號ノ改正
規定ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和二年分以前ノ營業稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
本法施行前遺石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍從
前ノ例ニ依ル

●樺太ニ於ケル租稅ノ種類及課率

昭和二年四月十九日
關令第三號

改正 昭六年五月拓務省令一號、七年一月二號

大正十年關令第三號樺太ニ於ケル租稅ノ種類及課率左ノ通改正ス

第一條 營業收益稅ノ種類及課率ハ左ノ區分ニ依ル

法人 純益金額百分ノ三・四

個人 純益金額千圓以下ナルトキ 百分ノ二・二

純益金額千圓(千圓以下ノ金額) 百分ノ二・二

ヲ超ユルトキ(千圓ヲ超ユル金額) 百分ノ二・六

第二條 市街宅地稅ノ課率ハ左ノ區分ニ依ル

一 一級 地價千分ノ五

二 二級 地價千分ノ三

第三條 酒造稅ノ種類及課率ハ左ノ區分ニ依ル

第一種 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒及酒精ハ一石ニ付酒精

〔樺法〕

〔樺法〕

前ノ例ニ依ル

附則 (昭和六年拓務省令第一號)

本令ハ個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和六年分ヨリ、法人ノ營業收益稅ニ
付テハ昭和七年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ
昭和六年分ノ個人ノ營業收益稅ニ限り改正規定中百分ノ二・二トアルハ
百分ノ二・五、百分ノ二・六トアルハ百分ノ二・八トス
昭和七年三月三十一日以前ニ終了スル事業年度分ノ法人ノ營業收益稅及
昭和五年分以前ノ個人ノ營業收益稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和七年拓務省令第二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前査定遺石數ニ係ル酒造稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

●樺太市街宅地稅規則

大正十年四月十七日
廳令第二十一號

改正 大二年四月廳令三八號、一三年九月三號、一二年四月三號、昭三年一月三
九號、六年四月一號

樺太市街宅地稅規則

第一條 市街宅地ニハ本令ニ依リ市街宅地稅ヲ賦課ス

市街宅地稅賦課ノ等級ハ樺太廳長官之ヲ指定ス

第二條 市街宅地稅ハ土地畫帳ニ登錄シタル地價ニ依リ之ヲ賦課徵收ス

第三條 樺太土地畫帳規則第九條ノ規定ニ依リ申告シタル市街宅地

第二章 租稅

第一節 租稅

●樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件

明治四十年三月二十七日
法律第二十一號

改正 大九年七月法律一三號、一〇年三月七號、一一年三月二號、一二年三月二號、
號、昭二年三月一〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太ニ於ケル租稅ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム(總、大、内、)
大臣副署)

第一條 樺太ニ於テハ左ニ掲ケル租稅ヲ賦課徵收ス

一 市街宅地稅

二 所得稅

三 營業收益稅

四 酒造稅

五 漁業稅

前項租稅ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ニ規定スルモノノ外租稅ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ
關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和二年法律第十號)

前ノ例ニ依ル

附則 (昭和六年拓務省令第一號)

本令ハ個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和六年分ヨリ、法人ノ營業收益稅ニ
付テハ昭和七年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ
昭和六年分ノ個人ノ營業收益稅ニ限り改正規定中百分ノ二・二トアルハ
百分ノ二・五、百分ノ二・六トアルハ百分ノ二・八トス
昭和七年三月三十一日以前ニ終了スル事業年度分ノ法人ノ營業收益稅及
昭和五年分以前ノ個人ノ營業收益稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (昭和七年拓務省令第二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前査定遺石數ニ係ル酒造稅ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

●樺太市街宅地稅規則

大正十年四月十七日
廳令第二十一號

改正 大二年四月廳令三八號、一三年九月三號、一二年四月三號、昭三年一月三
九號、六年四月一號

樺太市街宅地稅規則

第一條 市街宅地ニハ本令ニ依リ市街宅地稅ヲ賦課ス

市街宅地稅賦課ノ等級ハ樺太廳長官之ヲ指定ス

第二條 市街宅地稅ハ土地畫帳ニ登錄シタル地價ニ依リ之ヲ賦課徵收ス

第三條 樺太土地畫帳規則第九條ノ規定ニ依リ申告シタル市街宅地

分一度毎ニ七十五錢但シ一石ニ付二十二圓五十錢ヲ下ルコトヲ得ズ
第二種 酒精含有飲料ハ一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓八十錢但シ一石
ニ付四十二圓ヲ下ルコトヲ得ズ

酒精分ト稱スルハ攝氏檢溫器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有ス
ル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

酒類ノ遺石高ハ犯則ニ係ルモノヲ除ク外清酒ニ在リテハ百分ノ七、
味淋ニ在リテハ百分ノ三、燒酎ニ在リテハ百分ノ二ノ津引減量又ハ貯
藏減量ヲ控除シテ計算ス

一 酒造年度ノ製造高清酒百石未滿ナルトキハ百石、濁酒五十石未滿ナ
ルトキハ五十石トシテ之ヲ計算ス但シ同一ノ製造場ニ於テ清酒及濁酒
ヲ製造スル者ニハ濁酒製造ノ切上計算ニ關スル規定ヲ適用セズ

第四條 漁業稅ノ種類及課率ハ左ノ區分ニ依ル

免許漁業	年稅	專用漁業	一 漁業權ニ付	三十圓
		組合員ノ漁獲總價額	千分ノ二十五	
		定置漁業	一 漁業權ニ付	三十圓
		區劃漁業	漁獲價額	千分ノ五十

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ改正規定ハ昭和三年一月一
日ヨリ之ヲ施行ス

第四條ノ改正規定ハ昭和二年分漁業稅ヨリ之ヲ適用ス
昭和二年分以前ノ營業稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前遺石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍從

ノ等級及地價ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ土地ノ近傍額地ニ比較シ所轄太廳支廳長ハ前項ノ規定ニ依リ等級及地價ヲ査定シタルトキハ之ヲ土地所有者ニ通知スヘシ

第三條 市街宅地稅ハ年額ヲ二分シ毎年四月一日及十月一日ノ現在ニ依リ之ヲ賦課ス

第三條ノ二 市街宅地稅ハ各納稅義務者ニ就キ同一町村內ニ於ケル地價ノ合計額ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第四條 市街宅地稅ハ左ノ納期ニ依リ之ヲ徵收ス
前期(年額)五月
後期(年額)十一月

第五條 市街宅地稅ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス
一 實權ノ目的タル土地ニ付テハ實權者
二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者
三 其ノ他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ實權者、地上權者所有者ト稱スルハ土地權限ニ實權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ

第六條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ市街宅地稅ヲ徵收ス但シ納期開始後ニ地價ヲ修正シタルトキハ翌期分ヨリ修正地價ニ依リ之ヲ徵收ス

第七條 左ニ掲クル土地ニ對シテハ市街宅地稅ヲ免除ス
一 國、町村又ハ樺太廳長官ノ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共用地、鐵道用地、軌道用地、若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

〔樺法〕

樺太市街宅地稅規則施行細則

大正十年四月二十四日 廳訓令第二十九號
大正十一年四月五號 令五七號、一三年九月四號、一二月六號、昭三年二月五號、四年四月七號

一 用ニ供スル土地(但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス)
二 民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニ於テ直接使用スル土地(但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス)

三 社寺用地
四 學校用地
五 墳墓地
六 用惡水路、井溝、堤塘、溜池、水道用地
七 鐵道用地、軌道用地
八 公衆ノ用ニ供スル道路

軌道用地ノ區域ニ關シテハ地方鐵道法第十五條ノ規定ヲ準用ス

第八條 天災地變ノ爲メ土地ノ形狀ヲ變シ若ハ地盤ヲ損害シタルトキハ其ノ狀況ニ應シ十年以内ノ期間ヲ定メ市街宅地稅ヲ免除スルコトヲ得

前項免除期間內ニ於テ相當勞費ヲ加フルモ尙原形ニ復セザルトキハ所轄太廳支廳長ノ認可ヲ受ケ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ其ノ狀況ニ應シ十年以内ノ期間ヲ定メ市街宅地稅ヲ免除スルコトヲ得
一 開拓ニ著シキ勞費ヲ加ヘタル土地ナルトキ
二 海面、水面、浮洲等ニ勞費ヲ加ヘテ形成シタル土地ナルトキ

第十條 前二條ノ規定ニ依リ市街宅地稅免除ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ所轄太廳支廳長ニ申請スヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日內ニ所轄太廳支廳長ニ其ノ旨申告スヘシ
一 市街宅地稅ヲ賦課スル土地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、水道

〔樺法〕

樺太市街宅地稅規則施行細則

用地、鐵道用地、軌道用地、若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

二 市街宅地稅ヲ賦課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

第十二條 (削除)

第十三條 納稅義務者其ノ土地ノ所轄支廳管內ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ其ノ管內ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ所轄太廳支廳長ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條 收稅官吏ハ土地ノ検査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若ハ土地所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得

第十五條 納稅義務者市街宅地稅ヲ連脱シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且其ノ稅額ヲ定メ之ヲ追徵ス但シ自首シタルトキハ其ノ罪ヲ同ハス

第十六條 第十一條及第十三條ノ申告又ハ届出ヲ怠リ又ハ虛偽ノ申告又ハ届出ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第十七條 本令ニ依リ樺太廳支廳長ニ提出スル文書ハ總テ所轄支廳出張所長ヲ經由スヘシ

附則
本令ハ大正十年法律第七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 市街宅地稅ノ賦課徵收ニ關シテハ市街宅地集計簿ヲ設備シ所定ノ事項ヲ錄載スヘシ

市街宅地等級及地價査定通知書ハ第一號様式市街宅地稅賦課實績表ハ第二號様式、市街宅地集計簿ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ

第八條 本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第二條、第五條及第六條ノ規定ヲ除ク外市街宅地稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第一號様式

市街宅地等級及地價査定通知書

郡	町村	大字	字	地番	等級	坪數	地價
						一坪	一圓

右様太市街宅地稅規則第二條ノニ依リ通知候也

大正「何」年「何」月「何」日

「氏名」宛

「何」支廳長「官氏名」宛

第二號様式 市街宅地稅賦課實績表

大正「何」年度市街宅地稅賦課實績表

大正「何」年「何」月「何」日

支 廳 印

等 級	坪 數	地 價	稅 額	摘 要
一 級	坪	圓	圓	
二 級				
計				

規則第「何」條ニ依リ免除シタルモノ

等 級	種 別	筆 數	坪 數	摘 要
「何」級	學校敷地		坪	
	何々			
計				

第三號様式 市街宅地集計簿

現在額及異動	地 目	坪 數	地 價	筆 數	摘 要
		坪	圓		

備考

一 町村毎ニ別冊トスヘシ但シ紙數ノ少ナキモノハ合冊トスルモ妨ケナシ

二 (削除)

三 四月一日及十月一日ニハ坪數ノ現計ヲ掲記スヘシ

〔様法〕

- 四 減額ノ事項ハ之ヲ朱書スヘシ
- 五 町村ヨリ納稅報告ヲ受ケタルトキハ本簿現計ニ對照シ稅額ノ算出過不足ヲ摘要ニ記載スヘシ
- 六 規則第八條、第九條ニ依リ免除シタル土地ニ付テハ別ニ口座ヲ設ケ記載スヘシ

市街宅地稅賦課ノ等級

大正十年四月二十日 告示第五十九號

改正 大正三年二月告示一三號、一五年七月一二二號

市街宅地稅規則第一條第二項ニ依リ市街宅地稅賦課ノ等級左ノ通指定ス

- 一級
 - 豐原郡豐原町大字豐原
 - 大泊郡大泊町大字大泊
 - 眞岡郡眞岡町大字眞岡
 - 泊居郡泊居町大字泊居
- 二級
 - 榮濱郡落合町大字落合
 - 留多加郡留多加村大字河東
 - 本斗郡本斗町大字本斗
 - 野田郡野田町大字野田
 - 久春内郡久春内村大字久春内

〔様法〕

- 名好郡名好村大字名好
- 敷香郡敷香村大字敷香
- 敷香郡新路村大字内路
- 元泊郡東知取村大字東知取
- 鷺城郡鷺城村大字鷺城
- 鷺城郡惠須取村大字惠須取

市街宅地等級

大正九年十月一日 告示第四百四十八號

改正

- 大正〇年四月告示六八號、五月七九號、六月一〇九號、八月一六〇號、十一月一九三號、一月一七號、二月二九號、三月四七號、七月一四七號、九月一八二號、一八八號、十一月二四〇號、一二年二月八號、七月一四五號、九月一七六號、一〇月一九八號、一月二〇六號、二一七號、二月二三〇號、二四七號、一三年二月一號、一六號、四月三九號、六四號、六月九二號、七月一〇五號、一〇月一九九號、一七一號、一七九號、一月一八三號、一四年六月一〇三號、一月一七七號、一八四號、二月一九〇號、一五年二月一號、三月三四號、四月四五號、六月九六號、一〇二號、一一三號、七月一四五號、一月二〇四號、二月二二號、二月二四六號、昭二年五月九一號、七月一三三號、一月二〇四號、二月二二號、三月二四九號、八月一七四號、八月一七〇號、九月一八八號、四年四月七四號、七月一五〇號、八月一七四號、八月一七五號、一八三號、一〇月二二一號、二月二五四號、五年一月六號、二月一八號、三月三三號、三八號、八月一三〇號、一四〇號、九月一六四號、一月二一六號、二月三三九號、六年三月三九號、四月七八號、七月一八號、二七號、二月三四號、七月一六八號、一七四號、八月一九三號、九月二二七號、十月二五一號、九年五月九八號

等級

町

名

地	等七	等六	等六
北	山	山	北
通	通	通	通
乃至三六番地、二二番地、一三、一五番地	一、四、六、八、一〇、一二、一四番地	自北三〇番地、自北三一〇番地、自北三一四番地、自北三一八番地、自北三二二番地	自南九一八番地

留多加市街宅地等級

等	五	等六	等六
大	中	本	町
町	町	町	町
至自四八番地	至自三九番地	至自二〇番地	至自一五番地

地	等七	等六	等六
大	中	元	元
町	町	町	町
二北一五番地	四北一五番地	二北一五番地	二北一五番地

川口市街宅地等級

地	等七	等六	等六
錦末濱	船材西古	西元	西元
町	町	町	町
至自四四番地	至自一五番地	至自二七番地	至自二七番地

所得稅法ノ施行ニ關スル件

大正九年七月三十一日 法律第十二號

等	七	等六	等六
新住千三彌高若柳本	通	新大	中本
町	町	町	町
至自北四〇番地	至自北二五番地	至自北一五番地	至自北一五番地

〔轉法〕

改正 大正一〇年三月法律一五號、一二年三月二七號、一五年三月九號

- 第一條 所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニハ之ヲ施行セス
- 第二條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第三條第一種甲及乙並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス
- 第三條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ所得稅施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人ハ職業ヨリ生スル所得ニ付テハ所得稅法第十八條第六號ノ規定ヲ適用セス
- 第五條 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス
- 第六條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス
- 第七條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依

ル所得稅ヲ免除ス

附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十年法律第十五號)

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得稅ヨリ、第三條改正ノ規定ハ大正十年四月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十一年法律第二十七號)

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

● 樺太所得稅令

大正十一年四月十五日 勅令第二百二號

改正 大正十一年二月勅令二六六號、一四年一月五號、昭二年三月四三號

朕樺太所得稅令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樺太所得稅令左ノ通改正ス(總、大臣)

第一條 樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 樺太ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二 樺太ニ於テ公債、社債又ハ銀行預金ノ利子支拂ヲ受クルトキ

三 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル實與若ハ實與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付テ之ヲ賦課ス但シ國債、貯蓄債券法ニ依リ發行シタル貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券法ニ依リ發行シタル復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セス

第一種

甲 法人ノ普通所得

乙 法人ノ超過所得

丙 法人ノ清算所得

第二種

甲 樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ銀行預金ノ利子

乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル實與若ハ實與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第四條 法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ樺太ニ於ケル資産

依ル

〔樺法〕

〔樺法〕

又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス

法人ノ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 法人ノ普通所得カ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本令ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條 (削除)

第十條 (削除)

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ剩餘財産ノ價額カ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合

併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第十五條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一 營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 實與又ハ實與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與

與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資産、營業

又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額
株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受ケル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受ケル金額カ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受ケル利益ノ配當ト看做ス

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十六條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得(前條第一項第三號及第五號ノ所得)ニ付左ノ金額ヲ控除ス

一 所得中ニ勤勞所得以外ノ所得ナキトキハ所得總額中三千圓以下ノ金額ニ付十分ノ三、三千圓ヲ超ユル金額ニ付十分ノ二、六千圓ヲ超ユル金額ニ付十分ノ一ヲ乘シタル金額ノ合計金額

二 所得中ニ勤勞所得以外ノ所得アルトキハ所得總額ニ付前號ニ規定スル計算方法ヲ用ヒテ算出シタル金額ヨリ勤勞所得以外ノ所得ニ付前號ニ規定スル計算方法ヲ用ヒテ算出シタル金額ヲ控除シタル金額
戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ
第十七條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキ

ハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戸主及家族中年齡十八歳未満者ハ六十歳以上ノ者又ハ不具備疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト其ノ以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依リ控除ハ先ツ山林ノ所得以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及ブ

第十七條ノ二 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額貳百圓ヲ限リ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

第十八條 左ニ掲ケルモノニハ所得稅ヲ課セズ
一 樺太廳長官ノ指定スル公共團體
二 民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモノニシテ樺太廳長官ノ指定スルモノ

第十九條 所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ第一種甲及乙並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅ヲ課セズ
第二十條 所得稅法施行地又ハ臺灣ニ住所又ハ一年以上同居所ヲ有スル個

人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅ヲ課セズ

所得稅法施行地若ハ臺灣ニ住所ヲ有スル個人又ハ樺太ニ住所ヲ有セスシテ所得稅法施行地若ハ臺灣ニ一年以上同居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ掲ケル場合ヲ除クノ外所得稅ヲ課セズ

一 樺太ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後所得稅法施行地又ハ臺灣ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 所得稅法施行地又ハ臺灣ニ住所ヲ有スル者所得稅法施行地又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ所得金額決定前樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ
三 樺太、所得稅法施行地又ハ臺灣ニ住所又ハ一年以上同居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準スヘキ事由ノ生シタルトキ

第二十一條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セズ

一 軍人從軍中ノ俸給及手當

二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ恩給料

三 旅費、學資金法定扶養料

四 郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

五 所得稅法施行地又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル所得

六 營利ノ事業ニ關セサル一時ノ所得

七 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ樺太、臺灣及所得稅法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得

第二十二條 樺太廳長官ノ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ

生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ヲ受ケル重要物産ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付所得稅ヲ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第二十三條 所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ免除ス

第二十三條ノ二 樺太ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船舶ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得稅ヲ免除ス但シ其ノ船舶國カ日本船舶ノ所得ニ付同様ノ免除ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 第三種ノ所得ハ千五百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セズ第十六條乃至第十七條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル爲千五百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十五條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス
甲 普通所得
樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人 百分ノ五
樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セサル法人 百分ノ十

乙 超過所得
超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ四

同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十
同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ二十

丙 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス
積立金又ハ本令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額 百分ノ五
積立金又ハ本令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額 百分ノ十

其ノ他ノ金額 百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ
樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所
得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ
所得計算上之ヲ損金ニ算入セス

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十五條ノ二 同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各
號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年
額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ八、五萬圓ヲ超ユル
金額ニ百分ノ十二、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十六、五十萬圓ヲ超
ユル金額ニ百分ノ二十、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五ヲ乘シタ
ル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各
號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方)
ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコ
トヲ得

トヲ得

一 事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普
通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額
二 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタ
ル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額
ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ
事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一
ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本令ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用
人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株
式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第二十六條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 公債ノ利子 百分ノ四

其ノ他 百分ノ五

乙

第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分
シ選次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所
得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シテ
算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス

千五百圓以下ノ金額 百分ノ〇・六
千五百圓ヲ超ユル金額 百分ノ一・五
二千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二
三千圓ヲ超ユル金額 百分ノ三

〔樺法〕

〔樺法〕

五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ四
七千圓ヲ超ユル金額 百分ノ五
一萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ六・五
一萬五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ八
二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ九・五
三萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十一
四萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十三
五萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十五
七萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十七
十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十九
二十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十一
五十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十三
百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十五
二百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十七
三百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十
四百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十三

前項ノ場合ニ於テ戶主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總
額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ
各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付
亦同シ

第二十八條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所
ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル
計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額

ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ樺太ニ本店又ハ主
タル事務所ヲ有セサル法人ハ樺太ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益
ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラレヘキ法人ニ付其ノ所
得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所
得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十七條又ハ第十七條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスル者ハ前項
ノ申告ト同時ニ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第三十條 第一種ノ所得金額ハ第二十八條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ
又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決
定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定
ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シ
タルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會
ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申
出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二
項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十條ノ二 支廳長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者
ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第三十一條 各支廳所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク

調査委員ノ定數ハ樺太廳長官ノヲ定ム

第三十二條 調査委員ハ所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居シ第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且ツ其ノ決定ヲ受ケタル者ニ就キ支廳長ノヲ命ス其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前任命ノ要アル場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テ法定ノ申告期限前ナルトキハ前年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シタルコトヲ以テ其ノ年法定ノ期限迄ニ申告ヲ爲シタルモノト看做ス
前三項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス

第三十二條ノ二 調査委員ノ任期ハ任命ノ日ノ屬スル月ヨリ四年トス
所得調査委員會ノ屬スル區域ノ變更ニ因リ其ノ區域内ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ増減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員ノ任期ハ其ノ區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス
前條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前所得調査委員會ノ屬スル區域ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 調査委員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ
一 第三種ノ所得ニ對スル所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ

二 所得調査委員會ノ屬スル區域内ニ住居セサルニ至リタルトキ
調査委員職務ヲ怠リ若ハ體面ヲ汚損シタルトキ又ハ職務ニ堪ヘサルモノト認メタルトキハ支廳長ハ之ヲ免スルコトヲ得
第三十四條 調査委員ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給ス

第三十五條 所得調査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ樺太廳長官ノヲ定ム
第三十六條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキ又ハ所得調査委員會開會ノ日ヨリ樺太廳長官ノ定ムル開會期間内若ハ五月三十一日迄ニ諮問事項ヲ議了セサルトキハ政府ハ直ニ所得稅額ヲ決定ス
第三十七條 (削除)

第三十八條 樺太ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ運滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ
一 公債又ハ社債ノ名稱其ノ總額
二 利子支拂期限及利率
三 償還ノ方法及期限
四 數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期
第三十九條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給料歳費年金恩給退職料賃與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若

スル事實ヲ實同スルコトヲ得
第四十二條ノ四 所得調査委員會ハ樺太廳ニ之ヲ置ク
所得調査委員會ハ會長一人及委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ樺太廳高等官中ヨリ樺太廳長官ノヲ命ス
委員ハ稅務官吏中ヨリ三人及所得調査委員中ヨリ三人ヲ樺太廳長官ニ於テ命ス

所得調査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ樺太廳長官ノヲ定ム
第四十二條ノ五 調査委員ヨリ任命セラレタル審査委員ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ日當及旅費ヲ給ス
第四十三條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者第十五條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

所得金額決定後相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス
第四十四條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス
第四十五條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際ニ之ヲ徵收ス
第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ
第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サシテ樺太外ニ住所又ハ居

ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ
前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ樺太廳長官ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得
第四十條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ニ實同シ又ハ其ノ所得若ハ支拂ニ關スル帳簿及物件ヲ検査スルコトヲ得
第四十一條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付實同スルコトヲ得
第四十二條 第三十條若ハ第三十六條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ
樺太ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス
第四十二條ノ二 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算稅額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服ノ事由ヲ詳具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス
第四十二條ノ三 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス
所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關

所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第四十六條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第四十七條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セザルル稅金ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第四十八條 第四十三條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十九條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ支應所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所以外、住所ナキトキハ居所以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第五十條 所得稅ヲ納ムル義務アル法人樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザルトキハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第五十一條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

樺太ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキト

キハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第五十二條 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ樺太外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第五十三條 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得稅通脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第五十四條 本令ニ定ムルモノノ外所得稅ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

大正十一年中ニ任命スヘキ所得調查委員ハ所得調查委員會ノ屬スル區域内ニ住居シ其ノ年第二十九條ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ支廳長之ヲ命ス

附則 (昭和二年勅令第四十三號)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ昭和二年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ第二十九條、第三十六條及第四十五條ノ改正規定ハ昭和三年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第十五條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十五年三月中ノ收入ニ關スルモノハ之ヲ昭和二年分第三種所得トシテ計算セス

第十七條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ昭和二年ニ限り四月一日

〔樺法〕

金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル

前項ノ樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ樺太所得稅令第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 樺太所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

〔樺法〕

金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル

前項ノ樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ樺太所得稅令第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 樺太所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

〔樺法〕

金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル

前項ノ樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ樺太所得稅令第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 樺太所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

〔樺法〕

金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル

前項ノ樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ樺太所得稅令第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 樺太所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

〔樺法〕

金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル

前項ノ樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ樺太所得稅令第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 樺太所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

〔樺法〕

金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

樺太所得稅令施行規則

大正十一年四月二十四日 勅令第四十一號

改正 大正十四年二月勅令六號、昭和二年四月一六號

樺太所得稅令施行規則

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

第一條ノ二 法人ノ超過所得ノ算出ニ付テハ其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ超過所得ノ各級

トス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本令施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

所得調查委員ニ關シテハ昭和二年九月三十日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル所得調查委員ノ任期ハ昭和二年九月三十日ヲ以テ終了ス

第三十二條及第三十三條ノ改正規定中營業收益稅ニ關スルモノハ昭和二年分ニ付テハ之ヲ營業稅ニ關スルモノトス

トス

〔樺法〕

金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第二條 樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル樺太ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル

前項ノ樺太所得稅令ニ依リ所得稅課セラレザル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ樺太所得稅令第四條ノ規定ヲ準用ス

第五條 樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 樺太所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル

前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種所得稅額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ案分シテ之ヲ計算ス

第六條ノ二 樺太所得稅令第二十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種所得稅額ヨリ第二種所得稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ樺太所得稅令第二十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請ス

第七條 樺太所得稅令第十五條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲スヘシ
樺太所得稅令第十五條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス

第九條ノ二 樺太所得稅令第十六條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ各納稅義務者ノ勤勞所得ニ案分シテ之ヲ計算ス

控除ス

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得ト有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及ツ

第十一條ノ三 樺太所得稅令第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

- 一 保險者ノ住所及名稱
 - 二 保險ノ種類
 - 三 保險金額
 - 四 保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ關係
 - 五 前年中ニ拂込ミタル保險料金額
- 其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者樺太所得稅令第十七條ノ二ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ

第十一條ノ四 樺太廳支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 左ニ掲ケルモノニハ所得稅ヲ課セス
一 町村、水産組合、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ及神社、寺院、祠宇、佛堂
二 所得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノト指定セラレタルモノ

第九條 樺太所得稅令第十七條ノ不具癡疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第九條ノ二 樺太所得稅令第十七條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計カ控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セザルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ樺太廳支廳長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム

第十條 樺太所得稅令第十七條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ年齢十八歳未満者ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ關係、不具癡疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者樺太所得稅令第十七條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ
樺太所得稅令第十七條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者ノ一人ヨリ之ヲ提出スルヲ以テ足ル

第十一條 樺太廳支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得
第十一條ノ二 樺太所得稅令第十七條ノ二ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ樺太所得稅令第十五條乃至第十七條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ

第十三條

左ニ掲ケル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ樺太所得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
 - 二 鐵ノ條、竿、テーパーノ角形、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）
 - 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
 - 四 汽機、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
 - 五 漆、膏連灰、苛性曹達、硫酸アモモニウム、石炭酸、クロール酸加里及グリセリン
 - 六 製紙用バルブ
 - 七 板硝子
 - 八 コンデンスドミルタ
 - 九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物
 - 十 甜菜糖
- 前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅尺一尺八寸以上及長尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十四條 樺太所得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同令第二十八條又ハ第二十九條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得ト有

スルトキハ前條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十五條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ精算着手ノ日ヨリ二十日以内ニテ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十六條 解散シタル法人ノ精算所得ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ精算期間中ノ收支計算書ヲ添附シテ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ殘餘財産ヲ數回ニ分テ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十七條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ精算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日以内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十八條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十九條 樺太所得稅令第二十七條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第二十條 樺太所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒテ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

ハ其ノ年分ノ支拂豫算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十一條 第十九條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月十五日迄ニ別記第一號書式ノ異動調書ヲ提出スヘシ

第二十二條 第十九條及前條ノ規定ニ依リ調書ヲ提出シタルモノニ對シテハ其ノ請求ニ因リ調書ニ記載シタル一件一人毎ニ一錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

第二十三條 調査委員ノ定數ヲ左ノ如ク定ム

- 豐原支廳所轄内 五人
- 大泊支廳所轄内 六人
- 眞岡支廳所轄内 五人
- 泊居支廳所轄内 五人
- 其ノ他支廳所轄内 各四人

第二十四條 所得調査委員會ノ開會日數ハ各所得調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納メタル者及所得稅ヲ納メスシテ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ納メタル者ノ合計數ニ從ヒ左ノ範圍内ニ於テ樺太廳支廳長適宜之ヲ定ム

- 五千人以上ナルトキ 三十日以内
- 三千人以上ナルトキ 二十五日以内
- 千人以上ナルトキ 二十日以内

日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月十五日限

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

第二十條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ別記第一號書式ニ依リ支拂ヲ受ケタル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ付テ

〔樺法〕

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未満ナルトキ 十日以内

第二十五條 所得調査委員會ハ樺太廳支廳長ノ通知ニヨリ之ヲ開ク

第二十六條 所得調査委員會ニ會長ヲ置ク

會長ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ樺太廳支廳長之ヲ命ス

會長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者會長ノ事務ヲ代理ス

第二十七條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

第二十八條 所得調査委員會ノ議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニヨル

第二十九條 調査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 稅務官吏ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十一條 所得調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ樺太廳支廳長ニ報告スヘシ

第三十二條 樺太廳支廳長ハ樺太所得稅令第三十條若ハ第三十六條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十三條 樺太所得稅令第四十二條第二項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及所得金額ヲ公報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十三條ノ二 樺太所得稅令第四十二條ノ二第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事由ヲ具シ證書ヲ添へ所得金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ申出ツヘシ

第三十三條ノ三 所得審査委員會ハ樺太廳長官ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第三十三條ノ四 第二十六條第三項、第二十七條及第二十八條ノ規定ハ所得審査委員會ニ之ヲ準用ス

第二十九條ノ規定ハ審査委員ニ之ヲ準用ス

第三十三條ノ五 所得審査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル審査委員中稅務官吏ノ上席者會長ノ職務ヲ代理ス

第三十三條ノ六 所得審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第三十三條ノ七 樺太廳長官樺太所得稅令第四十二條ノ三ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算稅額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十四條 納稅義務者樺太所得稅令第四十三條ノ規定ニヨリ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ同時ニ樺太所得稅令第十七條ノ規定ニヨリ控除ヲ申請スルコトヲ得

第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 樺太所得稅令第四十三條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ所得額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十六條 樺太廳支廳長ハ樺太所得稅令第四十四條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

〔樺法〕

第四十三條 納稅義務者納稅地ノ樺太廳支廳所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル地ノ樺太廳支廳長ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第四十四條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第四十五條 納稅義務者樺太外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納稅地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第四十六條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第四十七條 樺太所得稅令第二十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ハ各當該地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅ノ免除期間ニ依ル

樺太所得稅令第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第四十八條 樺太所得稅令第二十三條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造業ノ營業場所所在地ヲ管轄スル各當該地稅務官署ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

第十四條ノ規定ハ前項ニ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 稅務官吏樺太所得稅令第四十條ノ規定ニ依リ帳簿、物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スヘシ

第五十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得稅ヲ逃脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務官署ニ申出テタル

第三十七條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ樺太所得稅令第十六條第二項、第十七條第二項、第二十四條第二項及第二十七條第二項ノ規定ニ適用ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セズ

第三十八條 所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第三十九條 第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ別記第二號書式ノ拂込書及第四號書式ノ計算書ヲ添テハ尙別記第五號書式ニ依リ其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添附スヘシ

日本銀行又ハ郵便官署前項ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別記第三號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書及明細書ヲ添付シ之ヲ收入徵收官又ハ收入徵收分掌官ニ送付スヘシ

第三十九條ノ二 第二種ノ所得ニ付所得稅ノ過誤納アリタル爲之カ下戻ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ノ所轄樺太廳支廳長ニ請求書ヲ提出スヘシ

第四十條 (刪除)

第四十一條 樺太所得稅令第五十條又ハ第五十一條第二項ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ申告ナキトキハ樺太廳支廳長其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十二條 第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムトスルトキハ其ノ旨居所地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

〔樺法〕

者ハ其ノ罪ヲ同ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ逃脫シタル者ノ所得金額ハ所得調査委員會ニ諮問セス所轄樺太廳支廳長之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

樺太廳支廳長前項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五十一條 正當ノ事由ナクシテ樺太所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ第十九條ニ定ムル支拂調査書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調査書ヲ提出シタル者又ハ樺太所得稅令第四十條ノ規定ニ依リ帳簿若ハ物件ノ検査ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調査書ニ付樺太所得稅令第三十九條第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第五十二條 樺太所得稅令第四十一條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十三條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第九條ノ二、第

第九類 財務 第二章 租税

二十六條第二項、第三十二條、第三十五條、第三十六條、第五十條第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外租税ノ賦課徴收事務ヲ分掌スル支應出張所長ニ之ヲ準用ス

第五十六條 本令ニ依リ樟太廳支應長ニ提出シ又ハ之ヲ經由スル文書ハ總テ所轄支應出張所長ヲ經由スヘシ

附則

第五十七條 本令ハ大正十一年勅令第二百二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

第五十八條 樟太所得税令第二十九條ノ規定ニ依ル申告又ハ申請ハ大正十一年分所得税ニ限り大正十一年五月末日限トス

第五十九條 銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本令施行前ニアルモノニ限り大正十一年分第三種所得トシテ計算ス

第六十條 樟太所得税令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ此ノ際第二十條ノ規定ニ依リ記載シタル支拂調書ヲ左ノ期限ニ從ヒ所轄樟太廳支應長ニ提出スヘシ

一 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ大正十一年五月末日限

二 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ大正十年四月一日ヨリ大正十一年三月三十一日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノハ大正十一年五月末日限、大正十一年四月一日ヨリ本令施行ノ日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノハ大正十一年六月末日限

三 大正九年八月一日後ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル法人ノ利

益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ大正十年四月一日ヨリ大正十一年三月三十一日迄ニ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタルモノハ大正十一年五月末日限、大正十一年四月一日ヨリ本令施行ノ日迄ニ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタルモノハ大正十一年六月末日限

大正九年八月一日後ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル法人ノ利益若ハ利息ノ配當ニシテ大正十年四月一日ヨリ大正十一年三月三十一日迄ニ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタルモノハ大正十一年五月末日限

第六十一條 第二十一條及第二十二條ノ規定ハ前條ノ支拂調書ヲ提出シタルモノニモ之ヲ適用ス

第六十二條 大正十一年ニ於ケル第二十四條ノ開會日數ハ樟太廳支應長ノ之ヲ定ム

附則 (昭和二年勅令第十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ昭和二年分所得税ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十四條、第十九條、第二十一條書式ヲ除ク第二十四條及第四十條ノ改正規定ハ昭和三年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

昭和二年ニ限り第十條及第十一條ノ三ノ改正規定中三月十六日トアルハ五月一日、第二十條ノ改正規定中前年三月一日トアルハ前年四月一日トス

大正十一年樟太廳令第四十二號ハ之ヲ廢止ス

〔榊法〕

第一號書式甲 (用紙美濃判)

何年分俸給其他支拂(異動)調書

年 月 日

官公衛名、法人、代表者其他支拂者 氏

名印

俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料	手當	賞與	支拂	住所又ハ居所	官職名	氏名
圓	圓	圓	圓			
何手當	何手當	何賞與				

備考

- 一 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料、賞與等ノ支拂調書ハ本様式ニ依ルモノトス
- 二 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及手當ノ金額欄ニハ左ノ金額ヲ記載スルモノトス
 - (イ) 前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額
 - (ロ) 前年一月一日後新ニ支給ヲ受クルニ至リタル者ノ分ニ付テハ本年分支拂算年額但シ本年一月一日以後調書提出迄ノ間ニ於テ支給ヲ受ケサルニ至リタル者ニ付テハ本年分支拂金額
- (ハ) 轉勤等ノ場合ニ於テハ新支拂者ニ於テ轉勤前ノ支拂金額ヲモ記載スルモノトス
- 三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ調書提出當時在勤セサル者ノ分ヲモ記載スルモノトス
- 四 賞與ノ支拂確定日ハ備考ニ記載スルモノトス
- 五 年金、恩給及退職料ニシテ代理受領ニ係ルモノニ付テハ其ノ受領者ノ住所氏名ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス
- 六 所轄樟太廳支應長ノ承認ヲ得タルトキハ本書式ト異ナリタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

第一號書式乙 (用紙半紙判)

何年何期分利益(利息)配當支拂調書

年 月 日

何會社代表者 氏

名印

一 配當金額

第九類 財務 第二章 租税

内無記名式株式ニ對スル分

株式數	舊株	新株
(出資金額又ハ基金)		
一株ノ額面金額	舊株	新株
同拂込済金額	圓	圓
配當率	舊株	新株
一株ノ配當金額	圓	圓
支拂金額ノ確定シタル月日	圓	圓

内 譯

株式數(出資金額又ハ基金)	配當金額	摘要
新株	圓	住所又ハ居所 氏 受ケタル者 名
舊株		

備考

- 一 摘要欄ニハ左記ノ事項ヲ記載スルモノトス
 - (イ) 優先株ニ付テハ其ノ優先權ニ基テ配當率ノ增加額
 - (ロ) 出資金額ノ割合ニ異ル持分計算ニ依リ利益ノ配當ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ持分ノ割合
 - (ハ) 棒太所得稅令第十五條第二項ニ依リ利益ノ配當ト看做サルル金額ニ付テハ其ノ支拂ヲ受ケタル者カ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受ケタル金額又ハ株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受ケタル金額
- 二 棒太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有セサル者ニ對スル内譯ハ別紙ニ記載シテ添附スルモノトス
- 三 無記名式株式ニ付テハ本書式ノ内譯ヲ要セサルモノトス
- 四 所轄棒太廳支廳長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本書式ト異リタル書式ニ依リ調製スルコトヲ得

〔棒法〕

第一號書式丙 (用紙半紙判)

自何年三月 至何年二月 無記名式株式利益(利息)配當支拂調書

年 月 日	所屬事業年度	株式數	配當金額	支拂月日	何會社代表者 氏 名
		新株	圓		住所又ハ居所 氏 受ケタル者 名
		舊株			

備考

- 一 利益又ハ利息ノ所屬事業年度別ニ小計ヲ付スルモノトス

〔棒法〕

● 樺太營業收益稅規則

昭和二年五月四日
勅令第二十一號

改正 昭三年八月勅令三二號、六年六月二三號、七年二月三三號

樺太營業收益稅規則左ノ通定ム

樺太營業收益稅規則

第一條 樺太ニ本店支店共ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本令ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

第二條 樺太ニ營業場ヲ有シ左ニ掲クル營業ヲ爲ス個人ニハ本令ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

- 一 物品販賣業（動植物共ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム）
- 二 銀行業
- 三 無業
- 四 金錢貸付業
- 五 物品貸付業（動植物共ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム）
- 六 製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
- 七 運送業（運送取扱ヲ含ム）
- 八 倉庫業
- 九 請負業
- 十 印刷業
- 十一 出版業

- 十二 寫真業
- 十三 席貨業
- 十四 旅人宿業（下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マズ）
- 十五 料理店業
- 十六 周旋業
- 十七 代理業
- 十八 仲立業
- 十九 問屋業

第三條 營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付テ賦課ス

第四條 法人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ計算シタル金額ニ依ル

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ純益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セス

法人ノ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條 個人ノ純益ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ計算シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

〔樺法〕

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

第七條 前條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ必要經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料共ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 左ニ掲クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス

- 一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
- 二 度量衡ノ製作修繕又ハ販賣
- 三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣
- 四 新聞紙法ニ依ル出版
- 五 樺太外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業
- 六 法人ノ漁業又ハ演劇興行
- 七 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク
- 第九條 左ニ掲クル物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ其ノ申請ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス
- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
- 二 鐵ノ條、竿、丁形アングル形類、軌條、板、線及管（鑄製管ヲ除ク）
- 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管

〔樺法〕

- 四 汽機、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
- 五 磚、曹達灰、苛性曹達、硫酸アンモニウム、石炭酸、クロール酸
- 六 製紙用バルブ
- 七 板硝子
- 八 コンデンソドミルタ及バター
- 九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物
- 十 甜菜糖、澱粉及麥粉

前項第九號ノ物産ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅原尺一尺八寸以上及長原尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付營業收益稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ營業收益稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ第十九條又ハ第二十條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ個人ノ營業ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益金額ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第九條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第九條ノ製造業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添付スヘシ

第十一條ノ二 樺太ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船

籍ヲ有スル船舶ノ純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ純益ニ付同業ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 個人ノ純益金額五百圓ニ滿タルトキハ營業收益稅ヲ課セス

第十三條 法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル市街宅地稅額ハ其ノ申請ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ市街宅地ニ付キ納付シタル市街宅地稅額ハ其ノ申請ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ市街宅地稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ市街宅地ノ地價、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ノ明細書ヲ提出スヘシ

第十六條 樺太廳支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタルモノニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十七條 第十三條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ市街宅地稅額ハ其ノ營業用ノ市街宅地ニシテ家事ニ關聯セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

前項ノ市街宅地稅額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス但シ第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ豫算ニ依ル

第十四條第二項ノ規定ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其他ノ營業トニ共通シテ使用スル市街宅地ニ對スル市街宅地稅額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ控除スヘキ市街宅地稅額ハ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル市街宅地ニ付納付シタルモノニ限ル但シ賃付ケタル市街宅地ニ對スル市街宅地稅額ノ控除ハ其ノ市街宅地ニ付キ生シタル純益ノ總額ニ百分ノ三、四ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ト其他ノ營業トニ共通シテ使用スル市街宅地アルトキハ其ノ市街宅地稅額ヲ營業收益稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ案分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依リテ不適當トスルトキハ資産價格又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第十八條 第十三條第二項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ市街宅地稅額ノ控除ヲ受ケムトスルモノハ第二十條ノ申請ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ納稅義務アルニ至リタルトキハ純益金額ノ決定前其ノ純益ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ市街宅地ノ番號、地價及市街宅地稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十九條 納稅義務アル法人ハ各事業年度ノ純益金額ヲ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ純益金額計算ノ基礎ヲ詳記シ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ但シ

第十五條 第十三條第一項ノ規定ニ依リ營業收益稅額ヨリ市街宅地稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ第十九條ノ申請ト同時ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

〔樺法〕

ノ事由ヲ詳具シ證書書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

第二十七條 樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ審査シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手頭ニ遺留シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅

〔樺法〕

樺太所得稅令ニ依リ所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二十條 納稅義務アル個人ハ純益金額ヲ毎年三月十五日迄ニ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

〔樺法〕

ノ事由ヲ詳具シ證書書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

第二十七條 樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ審査シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手頭ニ遺留シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅

第二十一條 法人ノ純益金額ハ第十九條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ相當ト認ムルトキハ樺太廳支廳長ノ調査ニ依リ樺太廳支廳長之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ樺太所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問シ樺太廳支廳長之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ樺太廳支廳長ハ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス樺太廳支廳長ハ其ノ純益金額ヲ決定ス

〔樺法〕

ノ事由ヲ詳具シ證書書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

第二十七條 樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ審査シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手頭ニ遺留シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅

第二十二條 樺太廳支廳長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔樺法〕

ノ事由ヲ詳具シ證書書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

第二十七條 樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ審査シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手頭ニ遺留シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅

第二十三條 樺太所得稅令第三十六條ノ規定ハ純益金額ノ決定ニ付之ヲ準用ス

〔樺法〕

ノ事由ヲ詳具シ證書書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

第二十七條 樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ審査シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手頭ニ遺留シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅

第二十四條 樺太廳支廳長第二十一條、前條又ハ第四十二條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

〔樺法〕

ノ事由ヲ詳具シ證書書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

第二十七條 樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ審査シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手頭ニ遺留シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅

第二十五條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ樺太廳支廳長ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服

〔樺法〕

ノ事由ヲ詳具シ證書書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第四十三條第二項ノ規定ニ依リ決定シタル純益金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求アリタル場合ト雖稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ決定ス

第二十七條 樺太廳長官前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十八條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額二分ノ一以上減損アルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第二十九條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ純益金額ヲ審査シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第三十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 第二十八條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手頭ニ遺留シタルモノナルトキ又ハ樺太廳支廳長ニ於テ純益金額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第三十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅

義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ樺太外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ營業收益稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期其ノ年八月一日ヨリ三十一日限
第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三十三條 第二十八條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十四條 個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第三十五條 納稅義務者納稅地ノ樺太廳支廳長所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ樺太廳支廳長ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第三十六條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ樺太廳支廳長ニ申告スヘシ

第三十七條 稅務官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第三十八條 稅務官吏前條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スヘシ

第三十九條 樺太廳支廳長ハ所轄内ニ事務所ヲ有スル同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調査ヲ作製シ指定ノ期限迄ニ之ヲ提出スヘシ

第四十條 樺太所得稅令第五十二條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條 第三十七條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ検査ヲ妨ケ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ逃脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ樺太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ同ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ逃脫シタル者ノ純益金額ハ第二十一條第二項ノ規定ニ拘ラス樺太廳支廳長之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第四十三條 營業收益稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ關係シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得シタル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二號、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第二十一條乃至第二十四條、第二十九條乃至第三十一條、第三十三條、第三十九條、第四十條及第四十二條第二項ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル樺太廳支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第四十六條 本令ニ依リ樺太廳長官又ハ樺太廳支廳長ニ提出スル文書ハ總テ所轄樺太廳支廳出張所長ヲ經由スヘシ

附則 本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

〔樺法〕

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

樺太營業收益稅規則施行細則

昭和二年十二月二十一日
訓令第五百二十四號

樺太營業收益稅規則施行細則
樺太營業收益稅施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樺太營業收益稅規則ヲ謂フ

第二條 支廳長ハ法人ノ營業收益稅ニ付テハ第一種所得稅ニ關スル調査ノ都度、個人ノ營業收益稅ニ付テハ四月末日迄ニ其ノ賦課ニ必要ナル事項ヲ調査スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

- 二、同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ス者ノ稅額欄算出額、控除額ハ純益金額ノ割合ニ依リ計算スルモノトス
- 三、圓位未満ノ端數ハ計ニ於テ四捨五入シ内譯ハ計ニ符合セシムルモノトス
- 四、前年決定額ニ對スル増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第七號ノ二様式

昭和 年 月 日

昭和 年分個人營業純益決定額區分表

支廳

區分	人員	純益稅額		前年決定額ニ對スル増減
		金額算出控除差引	人員純益差引	
純益金額千圓以下ノモノ		圓	圓	圓
千圓以下ノ金額		圓	圓	圓
千圓ヲ超ユル金額		圓	圓	圓
純益金額千圓以上ノモノ		圓	圓	圓
計		圓	圓	圓
合 計		圓	圓	圓

備考

- 一、圓位未満ノ端數ハ合計ニ於テ四捨五入シ内譯ハ合計ニ符合セシムルモノトス
- 二、本表ノ合計額ハ個人營業純益決定額表ノ計ト符合スルモノトス

第八號様式

昭和 年 月 日

昭和 年度法人營業純益決定額表

支廳

摘要	法人數	事業年度數	純益稅額		前年決定額ニ對スル増減
			金額	算出控除差引	
本年 新令ニ依ルモノ			圓	圓	圓
決定 舊令ニ依ルモノ			圓	圓	圓
計			圓	圓	圓
前年決定額ニ對スル増減			圓	圓	圓

備考

- 一、本年決定額法人數欄計ニ實際ノ法人數ヲ内書スルモノトス
- 二、誤謬訂正ノ結果稅額ニ増減ヲ來シタル場合ハ當切決定力本年度ニ屬スルモノニ限リ其ノ増減差額ヲ加減調理スルモノトス
- 三、圓位未満ノ端數ハ計ニ於テ四捨五入シ内譯ハ計ニ符合セシムルモノトス
- 四、前年決定額ニ對スル増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス

〔様式〕

● 樺太營業收益稅規則及樺太所得稅令施行規則ニ依リ樺太廳支廳ノ交附スヘキ檢査章様式

大正十一年五月七日
廳令第四十七號

改正 昭和二年二月廳令四二號

樺太營業收益稅規則第三十八條及樺太所得稅令施行規則第四十九條ニ依リ樺太廳支廳ノ交附スヘキ檢査章様式左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式用紙厚質白紙縦横二寸五分

第「何」號 檢 査 章	支廳印
樺太廳「何」支廳 官 氏 名	

● 樺太酒造稅規則

〔様法〕

大正十年四月十三日
廳令第十九號

改正 大正十一年一月三十一日
廳令第三十七號、一四年一月一號、昭和七年一月三十一日、八年二月二號

樺太酒造稅規則

- 第一條 本令ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ
- 第二條 本令ニ於テ清酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノヲ謂フ
- 第三條 左ニ掲タルモノハ清酒ト看做ス
 - 一 前項原料ノ外麥、粟、玉蜀黍、稗、清酒粕又ハ燒酎原料トシ醱酵セシメ又ハ酒母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ
 - 二 清酒又ハ清酒ト看做シタルモノヲ粕濾シタルモノ
 - 三 清酒又ハ前二號ニ依リ清酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ燒酎又ハ酒精ヲ混和シタルモノ
- 第四條 昭和三年一月十八日特許第七五一六〇號ノ製造法ニ依ル合成酒ハ當分ノ内之ヲ清酒ト看做ス
- 第五條 本令ニ於テ濁酒ト稱スルハ米、米麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノヲ謂フ
- 第六條 前項ノ原料ノ外麥、粟、玉蜀黍若ハ稗ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒母ヲ加ヘテ醱酵セシメ之ヲ濾過セサルモノハ濁酒ト看做ス
- 第七條 本令ニ於テ白酒ト稱スルハ米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シテ碾碎シタルモノヲ謂フ
- 第八條 前項原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノハ白酒ト看做ス

第一條ノ五 本令ニ於テ味淋ト稱スルハ米及米麴ト清酒、味淋、燒酎又ハ酒精トヲ混和シ濾過シタルモノヲ謂フ

左ニ掲クルモノハ味淋ト看做ス

一 前項原料ノ外味淋粕又ハ水ヲ混和シ濾過シタルモノ

二 味淋又ハ味淋ト看做シタルモノヲ粕澁シタルモノ

第一條ノ六 本令ニ於テ燒酎ト稱スルハ清酒粕、味淋粕、清酒又ハ濁酒ヲ蒸餾シタルモノヲ謂フ

米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、甘藷、甜菜、甜菜糖、澱粉、澱粉粕若ハ味淋粕ト麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメ又ハ酒精母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ蒸餾シタルモノニシテ酒精分八十五度以下ノモノハ燒酎ト看做ス

第一條ノ七 本令ニ於テ麥酒(ビール)ト稱スルハ麥芽、「ホップ」及水ヲ原料トシ麥酒母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ

前項原料ノ外總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍、馬鈴薯、澱粉又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス

第一條ノ八 本令ニ於テ酒精ト稱スルハ米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、馬鈴薯、甘藷、甜菜、甜菜糖、澱粉、澱粉粕若ハ味淋粕ト麴及水ヲ原料トシ醱酵セシメタルモノヲ蒸餾セシメタルモノヲ蒸餾シタルモノニシテ酒精分八十五度ヲ超ユルモノヲ謂フ

第一條ノ九 本令ニ於テ酒精含有飲料ト稱スルハ第一條ノ二乃至第一條ノ八ノ規定ニ該當セサル酒精含有飲料ヲ謂フ

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ所轄榭太廳支廳長

ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第三條 前條ノ規定ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル免許申請書ヲ製造場所轄榭太廳支廳長ニ提出スヘシ

一 製造場ノ位置

二 製造スヘキ酒類ノ種別

三 申請者ノ住所、氏名又ハ名稱

前項ノ免許申請書ニハ製造場ノ敷地及建物ノ詳細ナル圖面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ榭太廳支廳長ハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ

一 榭太廳支廳又ハ榭太廳支廳出張所所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ榭太廳支廳長ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒造稅法又ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者若ハ雇人其ノ他從業者カ免許ヲ申請シタルトキ

三 榭太廳支廳長ニ於テ免許ヲ與ヘサルヲ適當ト認メタルトキ

第四條 酒類製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ官所轄榭太廳支廳長ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造業ヲ引繼カムトスル者ハ第二條ノ規定ニ依リ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第五條 酒類製造者酒類ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書

〔榭法〕

ヲ所轄榭太廳支廳長ニ提出スヘシ

第六條 酒類製造者ハ事業著手前製造場一箇所毎ニ其ノ製造ニ使用スル容器、器具、機械ノ種別、數量ヲ所轄榭太廳支廳長ニ申告スヘシ

前項ノ容器、器具、機械ヲ修理シタルトキハ其ノ都度所轄榭太廳支廳長ニ申告スヘシ其ノ種別、數量ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第七條 前條ノ申告アリタルトキハ所轄榭太廳支廳長ハ其ノ容器、器具、機械ヲ檢定シ番號、容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ

酒類製造者ハ前項ノ檢定ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一酒造年度トス

第九條 酒類製造者ハ毎酒造年度ニ於テ製造スヘキ酒類ニ關シ左ノ事項ヲ其ノ酒造年度開始前ニ之ヲ所轄榭太廳支廳長ニ申告スヘシ

一 毎酒類ノ見込造石數

二 製造著手ノ時期

三 製造ノ方法及其ノ仕込數新ニ酒類ヲ製造セムトスルモノハ事業著手前前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度所轄榭太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ酒造稅ヲ課ス

第十一條 酒類ハ造石數ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ實在スル酒類ノ總量ニ就キ之ヲ査定ス

犯關其ノ他ノ事故ニ依リ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

第十二條 同一製造場内ニ於テ酒類製造ノ原料トシテ使用スル酒類ニハ造石稅ヲ課セス

前項ノ原料用酒類ハ製成ノ時石數ノ檢定ヲ受タルコトヲ要ス

第十三條 左ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ酒造原料用トシテ檢定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ヲ査定ス酒類ノ製造用ニ供スル醪ニ付亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ醪ハ濁酒ヲ製成シタルモノト看做ス

一 廢業シタルトキ

二 他人ニ讓渡シ又ハ買入スルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

四 製造場外ニ移出スルトキ

五 公賣ニ付セラルトキ

前項第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ酒類製造者ハ其ノ旨直ニ所轄榭太廳支廳長ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造者酒類ヲ粕澁セムトスルトキハ著手前其ノ數量及時期等ヲ所轄榭太廳支廳長ニ申告スヘシ

粕澁シタル酒類ノ造石數ハ粕澁ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ之ヲ査定ス但シ原酒類ノ石數ヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ總石數ニ就キ之ヲ査定ス

第十五條 酒類製造者自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル酒類又ハ醪、酒精、酒精含有飲料ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ總石數ニ就キ之ヲ査定ス

第十六條 一製造場ニ於ケル一酒造年度ノ製造石數清酒百石濁酒五十石未滿ナルトキハ其ノ不足石數ハ當該年度最終ノ月ニ於テ査定シタルモ

〔榭法〕

ノト看做ス但シ變災其ノ他已ム得サル事故ニ因リ製造シ能ハサリシ
コトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
同一ノ製造場ニ於テ清酒及濁酒ヲ製造スルトキハ濁酒ノ不足石數ニ付
テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第一項但書ノ規定ニ依ル證明ハ年度終了後一ヶ月以内ニ所轄樺太廳支
廳長ニ之ヲ爲スヘシ

第十七條 酒造稅ノ納期ヲ分チ左ノ四期トス

第一期 七月

前年十月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ査定石數ニ係ル稅額四分
ノ一

第二期 十月

同上

第三期 翌年二月

同上及其ノ年四月一日ヨリ九月三十日迄ノ査定石數ニ係ル稅額二分
ノ一

第四期 翌年三月

前納額ノ殘數

第十八條 第五十四條ノ規定ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタルトキ又
ハ酒類製造者納稅保證物ノ免除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲ササルト
キハ前條ノ納期ニ拘ラス酒造稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ場合及國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ酒造稅ヲ徵收スル場合ニ於
テハ納稅ノ擔保トシテ酒類ヲ差押スルコトヲ得

第十九條 酒類製造者ハ納稅保證トシテ一酒稅年度見込造石數一石ニ付

金五圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ酒類製造者手
前所轄樺太廳支廳長ニ提供スヘシ但シ樺太廳支廳長ノ許可ヲ受ケ毎月
見込造石數ニ對シ本條ノ割合ヲ以テ其ノ前月中ニ保證物ヲ提供スルコ
トヲ得
前項但書ニ依リ許可ヲ得ムトスル者ハ毎酒造年度製造者手前其ノ旨所
轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ
毎酒造年度ノ見込石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上
増加シタルトキハ其石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増加スヘ
シ
毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以
上減少シタルトキハ其ノ石數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ノ減額
ヲ請フコトヲ得
酒類製造者此ノ規則ヲ犯シテ處罰セラレタルトキ又ハ酒造稅ニ付テ滯
納處分ヲ受ケタルトキハ爾後五年間酒造稅額迄ノ保證物提供ヲ命スル
コトヲ得
前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物
ノ増減ヲ爲サス
保證物ヲ増補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘ
シ
第二十條 酒類製造者前條ニ規定スル保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官
吏ハ製造酒類ニ封緘ヲ附シ之ヲ讓渡シ、買入シ、消費シ又ハ製造場外
ニ移出スルコトヲ停止スルコトヲ得
第二十一條 保證物ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

〔律法〕

一 金錢

二 國債

三 土地

四 火災保險ヲ附シタル建物保證物ノ保證價格ハ特別ノ規定アルモノ
ヲ除クノ外所轄樺太廳支廳長ノ認定スル所ニ依ル

第二十二條 金錢又ハ無記名國債證券ヲ保證物トシテ提供スルトキハ之
ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ保證物トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄簿
通知書ヲ所轄樺太廳支廳長ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタル
モノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

土地又ハ建物ヲ保證物トシテ提供スルトキハ樺太廳支廳長ニ於テ抵當
權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十三條 保證物トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルト
キ若ハ建物ノ壊倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒
類製造者ハ樺太廳支廳長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ
建物ニ對スル保證金ヲ受領シタルトキハ其ノ保證金ヲ保證物トシテ供
託スヘシ

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除ス

一 納稅保證トシテ酒造稅額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ

二 酒造稅ヲ前納シタルトキ

第二十五條 酒類製造者前條ノ規定ニ依リ保證物ノ免除ヲ請ハムトスル
トキハ毎酒造年度製造者手前其ノ方法ヲ選ビ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ
申請スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

第二十六條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封緘
ヲ附スルコトヲ得

第二十七條 樺太廳支廳長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納
稅保證ニ適セサルニ至リタルト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ
得

第二十八條 酒類製造者ハ所轄樺太廳支廳長ニ申出保證物又ハ保存ノ義
務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 酒類製造者酒造稅ヲ納メサルニ依リ滯納處分ヲ執行スルト
キハ先ツ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ稅金ヲ徵收ス
ヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價格力徵收スヘキ稅金
額及滯納處分費ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就キ
滯納處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ其ノ酒類ニ對スル酒造稅ヲ免除スルコトヲ
得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 腐敗シタル酒類ニシテ收稅官吏ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカ
ラサル處置ヲ施シタルモノ

三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類
ニシテ燒酎又ハ酒精ノ製造用ニ供スルモノ

四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第三十一條 前條ノ規定ニ依リ酒造稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事
實ノ生シタルトキ直ニ所轄樺太廳支廳長ニ申請スヘシ

第三十二條 酒類製造者其ノ製造シタル酒類ヲ製造場ヨリ直接外國ニ輸

出シ又ハ出港税ヲ納付シテ内地ニ移出シタルトキハ其ノ酒類ニ對スル酒造税ヲ免除ス但シ製造場ヨリ移出前所轄太監支廳長ノ承認ヲ受ケサルモノ又ハ遺石數ノ査定後一年ヲ經過シタルモノハ此ノ限りニ在ラス

第三十三條 前條ノ規定ニ依リ酒造税ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄太監支廳長ニ申請スヘシ

- 一 酒類ノ種別及石數
- 二 積載シタル船舶ノ名稱
- 三 輸出シ又ハ移出シタル年月日
- 四 輸出ノ場合ニ於テハ輸出免狀及外國ニ陸揚シタルコトヲ證スル書面
- 五 移出ノ場合ニ於テハ出港税ノ納付済證

第三十四條 酒類製造者ハ酒母、醗又ハ原料用酒類廢棄若ハ亡失シタルトキハ直ニ所轄太監支廳長ニ申告スヘシ廢散シタルトキ亦同シ

第三十五條 酒類製造者ハ製造場外ヨリ酒母、醗又ハ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ運搬ナク其ノ旨所轄太監支廳長ニ申告シ其ノ検査ヲ受クヘシ

第三十六條 酒類製造者其ノ製造シタル醗ヲ使用セムトスルトキハ收税官吏ノ検査ヲ受クヘシ
前項ノ外收税官吏カ必要ト認メテ酒類製造用原料品ヲ指定シ其ノ使用前検査ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒類製造者ハ其ノ検査ヲ受クヘシ

第三十七條 酒類製造者ハ遺石數査定ノ時其ノ酒粕ノ検査ヲ受クヘシ

第三十八條 酒類製造者ハ遺石數ノ査定ヲ受タル後ニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ處分シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十九條 酒類製造者納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第四十條 酒類製造者ハ左ノ場合ニ於テハ收税官吏ノ命スル所ニ依リ其ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 熱成シタル醗ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲サムトスルトキ
- 二 仕込酒ノ醗ニ水ヲ混和セムトスルトキ
- 三 原料用酒類ノ用途ヲ變更セムトスルトキ
- 四 蔵出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲サムトスルトキ
- 五 酒類製造中其ノ製造用容器、器具、機械又ハ酒造用原料ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ
- 六 製造方法ノ異ナル酒類ノ仕込ニ使用スル酒母及醗ヲ彼此混淆シテ使用セムトスルトキ
- 七 二仕込以上ノ醗ヲ合併シテ清酒ヲ樽揚ケムトスルトキ
- 八 前各條ノ外收税官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第四十一條 收税官吏ハ酒類製造者又ハ酒類販賣者ノ所持ニ係ル酒類、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿及酒類製造又ハ販賣上必要ナル建築材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 酒類製造者ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒類製造ノ仕込、酒類ノ蔵出、受拂、増減其ノ他製造ニ關スル一切ノ事項ヲ詳細明瞭ニ

〔律法〕

帳簿ニ記載スヘシ

第四十三條 酒類製造業ヲ繼續シ又ハ廢限ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ酒類製造業ヲ營ム者ヨリ酒造税ヲ徵收ス

第四十四條 本令中太監支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ酒類製造者ニ對スル酒造税ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第四十五條 本令ニ依リ太監支廳長ニ提出スル文書ハ總テ所轄支廳出張所長ヲ經由スヘシ

第四十六條 酒類製造者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ構ヘ酒造税ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 酒類製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ酒類ニ對スル酒造税ハ之ヲ即納スヘシ

一 第二條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケシテ酒類ヲ製造シタルトキ

二 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ遺石數ノ査定ヲ免レ又ハ免レムトシタルトキ

三 第三十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

第四十八條 酒類製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第四條、第十三條第二項、第三十四條及第三十五條ノ申告若ハ第五條ノ申請ヲ怠リ又ハ其ノ申告若ハ申請ニ虛偽ノ事項ヲ記載シタルトキ

二 第七條第二項、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 第四十條ノ規定ニ依リ收税官吏ノ命シタル事項ニ違反シタルトキ

〔律法〕

第四十九條 酒類製造者收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 酒類製造者又ハ酒類販賣者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十一條 酒類製造者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 酒類製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者ヲ處罰ス

第五十三條 法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ヲ處罰ス

第五十四條 第四十七條第二號、第三號、第四十八條若ハ第四十九條ノ規定ニ依リ處罰又ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ酒類ヲ製造セザル者ニ對シテハ太監支廳長ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ酒母、醗其ノ他半製品現存スルトキハ太監支廳長ハ酒類製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ

附則
本令ハ大正十年法律第七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
太監酒類製造業規則ハ之ヲ廢止ス但シ大正十年三月三十一日以前查

定済石數ニ係ル酒類ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ檢定未済又ハ使用未済ノ原料用酒類
若ハ仕込済ノ酒類製造用原料品ヲ所持スルトキハ製造者手ノ時期如何ニ
拘ラス本令ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ大正九年四月一日ヨリ大正十年三月
三十一日迄ニ製造シタル酒類ハ本令施行ノ日ヨリ大正十年九月三十日迄
ニ製造シタル造石數ニ合算シ第十六條ノ規定ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ樽太酒類製造業稅規則第二
條、第六條第一項、第八條ノ二ノ申告ハ本令第二條、第六條第一項、第
九條ニ依リ申告アリタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ樽太酒類製造業稅規則第七條ニ依
リ檢定ヲ受ケタルモノハ本令第七條ニ依リ檢定ヲ受ケタルモノト看做ス
本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ樽太酒類製造業稅規則第十
五條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ本令第十九條第一項
但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ酒類製造者ニシテ樽太酒類製造業稅規則ニ依リ提供
セル保證物ハ本令ニ依リ提供スヘキ保證物ニシテ繼續スルコトヲ得但シ
國債以外ノ有價證券ニ在リテハ其ノ效力ハ大正十五年三月限トス

附則 (昭和七年勅令三十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ酒類製造ノ申告ヲ爲シ本令施行ノ際現ニ酒類製造者タ
ル者ハ本令ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

●樽太酒造稅規則施行細則

改正 大正四年一月勅令一號

大正十年四月十四日
勅令第二十五號

內務部 支那 支那出張所

樽太酒造稅規則施行細則左ノ通定ム但シ帳簿計表類ノ様式ハ別ニ之ヲ領
ツ(様式略)

樽太酒造稅規則施行細則

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ樽太酒造稅規則ヲ謂フ
第二條 支廳長ハ規則第六條ノ申告アリタルトキハ直ニ其ノ容器、器具、
器械ヲ檢定シ番號、容量、檢定、年月日ヲ標記シ又ハ之ヲ標記シタル
木札ヲ附スヘシ

第三條 容器ノ測度及容量ノ算出ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

測度法

第一條 底面開口徑 底徑ヨリ上方ニ向テ口徑ノ何レモ内側ニテ
底徑ノ箇所開口徑一尺毎ノ箇所 下リタル箇所
縱横(+)ノ如ク度リ縱横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム嗣徑ノ稱
呼ハ底徑ヨリ一尺ノ箇所ヲ第一嗣徑トシ同シク二尺ノ箇所ヲ第二嗣
徑トシ以下之ニ依リ

深ハ其ノ容器ノ前後左右及中心ニ就キ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ垂直ニ
度リ之ヲ和シ五ニテ除シ一寸ヲ減シテ之ヲ定ム
尺度ハ西尺ヲ用キ分位ニ止ム

容量計算法

甲 全量計算

(律法)

第一條 容器ノ測度及容量ノ算出ニシテ前各項ニ依リ離キモノニ付テハ便宜
ノ方法ニ依リ測算スヘシ

第二條 酒樽ハ竹、鐵板ヲ裝置シタル儘内側ニ於ケル縱横ノ相乘ニ樽
底ヨリ層層ノ喰込迄ノ深ヲ相乘シ樽率(〇・六四八二七)ニテ除シ其ノ
容量ヲ測定スヘシ

第三條 層層ノ容量ハ前項ニ準シ之ヲ測定スヘシ
掛袋ハ適當ナル容器ニ水ヲ容レ其ノ容量ヲ度リ掛袋百枚乃至二百枚ヲ
水面下ニ沈マシメ再ヒ其ノ容量ヲ量リ增加石數ヲ算出シテ其ノ容量ヲ
測定スヘシ

第四條 造石數ノ査定又ハ原料用酒類及醱ノ檢査ヲ爲ストキハ容器ノ入
實深五方(前、後、左、右、中心)ヲ測度シ之カ平均(此ノ場合層位ヲ
分位ニ止ム)ニ依リ其ノ石數ヲ算出スヘシ但シ空積深ニ依ルモ其ノ容
積ヲ正確ニ計量シ得ヘキ場合ニハ容器中心ノ空積深ヲ縱横ニ測度シ之
カ平均(此ノ場合層位ヲ生スルトキ)ニ依リ石數ヲ算定スルモ妨ナシ

第五條 前項ノ容器ニ付テハ中心ノ入實深ヲ測リ其ノ石數ヲ算定スヘシ但
シ入實深檢定ノ寸尺ニ恰當セサルトキハ其ノ端數ハ樽量スルモノトス

第六條 支廳長ハ規則第九條ノ申告ニ依リ酒類製造見込高報告表ヲ調製
シ十月二十日迄ニ之ヲ樽太廳長官ニ提出スヘシ

第七條 石數ノ査定ハ規則其ノ他特別ノ事由アル場合ヲ除ク外一仕込
又ハ一區分毎ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 規則ニ係ル酒類ノ査定ヲ要スルモノハ特殊ノ事由アルモノヲ除
クノ外通告履行又ハ裁判確定ノ後其ノ通告又ハ判決書ニ於テ認メタル
事實ニ依リ之ヲ爲スヘシ

(一)

第一條 底徑ニ第一嗣徑ヲ和シタル尺度ヲ別表ニ照シ得タル數ヲ甲トシ
テ第一嗣徑ヨリ底徑ヲ減シ其ノ差ヲ別表ニ照シ得タル數ヲ乙ト
シ甲乙ヲ和シタル數ヲ以テ第一嗣徑以下ノ石數トス但シ石數ハ
合位ニ止ム

(二)

第一條 第一嗣徑以上各徑間ノ石數亦右ノ例ニ依ル但シ口徑ト口徑ノ直
下タル嗣徑トノ間ノ深一尺ニ滿タサルモノニ付テハ右ノ例ニ依
リ得タル數中乙ヲ和シ之ニ口徑ト口徑ノ直下タル嗣徑トノ間ノ
深ヲ乘シ其ノ石數トス

石數ハ合位ニ止ム
全量石數ハ各徑間ノ石數ヲ合算シタルモノトス

乙 端石計算

第一條 入實水面各徑ノ間ニ在ルトキハ水面ノ箇所ヲ口徑ト假定ス其ノ口徑
ヲ求ムルニハ入實水面ノ直上直下兩徑ノ差ニ直下ノ徑ヨリ入實水面
迄ノ深ヲ乘シ(入實水面カ口徑ト口徑ノ直下タル嗣徑トノ間ニ在リ
テ除)テ兩徑間ノ深一尺ニ滿タサル場合ハ更ニ其ノ深ヲ以
シ)差分ヲ得之ヲ下方ノ徑ニ加ヘテ假定ノ口徑トス但シ差分ハ分
位ニ止ム

第二條 假定ノ口徑ト其ノ直下タル徑トノ間ノ石數ヲ全量計算(但書ノ例ニ
準シテ計算シ之ニ以下各徑間ノ石數ヲ加算シ入實石數ヲ得ルモノト
ス但シ石數ハ合位ニ定ム)

第三條 蓋又ハ蓋類ノ容量ハ樽量ヲ以テ口徑ヨリ一寸下リタル箇所迄ノ容量
ヲ量リ全容量トス此ノ場合ニ於テハ底部ヨリ一斗又ハ五升毎ノ遞加
石數別入實尺度ヲ關係帳簿ニ掲記スヘシ

無申告者ノ製造ニ係ル酒類ヲ査定シタルトキハ酒類査定簿ニ準シ査定書ヲ作成スヘシ

前項酒類ノ徵稅ヲ要スル場合ニ於テ其ノ主管他ノ支廳ニ屬スルトキハ該支廳ノ附本ヲ添ヘ其ノ要項ヲ當該支廳長ニ通知スヘシ

第九條 造石數ハ左ノ時期ニ之ヲ査定スヘシ

- 一 清酒及味淋ハ榨揚ヲ終リタルトキ
- 二 濁酒ハ酒精醱酵ノ閉止シタルトキ
- 三 白酒ハ碾碎ヲ終リタルトキ
- 四 燒酎及酒精ハ蒸餾ヲ終リタルトキ
- 五 麥酒ハ濾過ヲ終リタルトキ但シ濾過後殺菌ヲ爲スモノハ其ノ殺菌ヲ終リタルトキ
- 六 酒精含有飲料ハ單ニ原料品ヲ混合シテ即時製成スルモノハ其ノ混合ヲ終リタルトキ、原料品ヲ混合シタル後或期間ヲ經テ壓搾、蒸餾、濾過其ノ他ノ方法ニ依リ製成スルモノハ其ノ成功シタルトキ

造石數ヲ査定スル場合ニ於テハ一容器毎ニ其ノ酒精分ヲ檢定スルコトヲ要ス但シ製造方法ニ依リ酒精分三十度以下ナルコト明確ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條 酒精分ヲ檢スルニハ左ノ方法ニ依リ攝氏檢温器及「ゲールサツク」氏酒精計ヲ用ヒ之ヲ爲スヘシ但シ一度ニ滿タサル温度ハ切上ケ酒精分ハ切捨ツヘシ

- 一 清酒ハ百立方「センチメートル」ニ水五十立方「センチメートル」ヲ混和シ百立方「センチメートル」ヲ抽出シタルモノニ就キ之ヲ爲スコト

二 濁酒、醱ハ其ノ濾過液ニ就キ前號ノ方法ヲ爲スコト

三 味淋、白酒ハ五十立方「センチメートル」ニ水百立方「センチメートル」ヲ混和シ百立方「センチメートル」ヲ抽出シタルモノニ就キ其ノ酒精分ヲ檢査シ之ヲ二倍スルコト

第十一條 清酒、味淋、燒酎ノ滓引減量又ハ貯藏減量ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ控除スヘシ

- 一 酒精分三十度以下ノモノハ査定石數ノ月計ニ依リ計算シ合位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ合位ニ切上ケヘシ
- 二 酒精分三十度ヲ超ユルモノハ査定酒精總數ノ月計ニ依リ計算シ毛位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ毛位ニ切上ケヘシ但シ造石數ハ前號ノ例ニ依リ之ヲ計理スヘシ

第十二條 支廳長ハ規則第十四條第一項ノ申告アリタルトキハ收稅官吏ヲシテ直ニ其ノ原料ヲ檢査セシムヘシ粕漉ヲ終リタルトキハ亦同シ

第十三條 支廳長ハ規則第十六條第三項ノ證明アリタルトキハ收稅官吏ヲシテ直ニ其ノ事實ヲ調査セシム理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨酒類製造者ニ通告シ理由アリト認ムルトキハ意見ヲ具シ關係書類ヲ添附シ樽太廳長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 支廳長規則第十八條第一項ニ依リ酒造稅ノ徵收ヲ決定シタルトキハ其ノ旨樽太廳長官ニ報告スヘシ

〔釋法〕

セシムヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託セシム其ノ受領證ヲ提出セシムルコトヲ要ス

保物タル建物ニ對スル火災保險期限ハ少クモ當該年度中製造セル酒類ノ酒造稅最終納期後三箇月以内ニ滿テセサルモノタルヲ要ス

第十八條 支廳長ハ規則第十九條第二項ノ申請アリタルトキハ其ノ當否ヲ調査シ相當ト認メタルトキハ之ヲ許可シ直ニ樽太廳長官ニ報告スヘシ

第十九條 支廳長ハ規則第二十五條ノ申請アリタルトキハ酒造稅前納ノ場合ハ直ニ之ヲ許可シ酒類ヲ保存スルトキハ品質石數ヲ調査シ相當ト認メタルトキハ之ヲ許可シ酒類保存證書ヲ發スヘシ

保存酒類ノ容器ニハ封緘ヲ施シ稅名數及保存酒タルコトヲ標記セシムヘシ

保存酒類ハ毎月一回以上其ノ封緘蓋酒實ニ異常ナキヤ否ヲ檢査スヘシ

保存酒類ノ保證價格ハ其ノ時價(卸賣)ニ依リ其ノ價格ヲ算定シ百分ノ二十五ヲ減シタル額ニテ之ヲ定ムヘシ

第二十條 支廳長ハ左ノ場合ニ於テハ相當期間ヲ指定シ増補又ハ變換ヲ命スヘシ

- 一 保證物又ハ保存酒ノ價格ノ減少ニ因リ其ノ増補ヲ要スルトキ
- 二 有價證券ノ償却又ハ建物火災保險契約ノ消滅等ニ依リ更ニ保證物ノ提供ヲ要スルトキ
- 三 保存酒類ノ納稅保證ニ適セサルニ至リタルト認メタルトキ
- 四 酒類見込石數若ハ査定石數ノ増加ニ依リ保證物ノ増補ヲ要スルトキ

第十六條 支廳長ハ納稅保證物ノ提供アリタルトキハ其ノ當否ヲ調査シ相當ト認ムルトキハ直ニ之ヲ受理シ相當ト認ムルトキハ其ノ事項ヲ指定シテ之ヲ更正セシムヘシ

保證物ノ保證價額ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

- 一 土地、建物
 - 時價ニ依リ其ノ價格ヲ評定シ百分ノ二十ヲ減シタル額但シ建物ノ算出價額カ火災保險契約額ヲ超ニル場合ハ保險契約額ト同額トス
- 二 國債
 - 其ノ價額金額

土地建物ハ質權、抵當權、地役權、永小作權、地上權又ハ賃借權 登記ナキモノニ限ル建物ハ其ノ敷地ト共ニ提供セシムルコトヲ要ス但シ其ノ敷地他人ノ所有ニ屬シ地上權又ハ賃借權ノ登記アルモノハ百分ノ三十五、其ノ登記ナキモノハ百分ノ五十ヲ減シタル額ヲ保證價額トシ特ニ保證物トシテ提供セシムルコトヲ得

第十七條 保證物ノ提供ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

- 一 土地建物ニ付テハ保證物提供書、登記義務者ノ權利ニ關スル登記簿及登記義務者ノ承諾書ヲ提出セシム不動產登記法第三十一條第一項ノ規定ニ依リ遲滞ナク登記願託ノ手續ヲ爲スヘシ
- 二 建物ニ付テハ前號ノ外火災保險證書及其ノ債權讓渡ノ通知ニ關スル委任狀ヲ提出セシムルコトヲ要ス
- 三 金錢又ハ無記名國債ニ付テハ保證物提供書ヲ提出セシメ供託書ヲ交付シ之ヲ供託セシメ其ノ受領證ヲ提出セシムヘシ
- 四 登錄國債ニ付テハ擔保ノ登錄ヲ受ケシメ其ノ登錄簿通知書ヲ提出ス

- 五 規則第十九條第五項ニ依リ酒造稅全額迄ノ保證物提供ヲ命シタルトキ
- 前項第五號ニ依リ保證物ノ提供ヲ命シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨俸太廳長官ニ報告スヘシ
- 第二十一條 前條ノ場合ニ於テ納稅義務者保證物ノ増補又ハ變換ヲ爲ササルトキハ支廳長ハ直ニ徵稅ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 酒類造石數査定ノ際納稅保證物ノ提供ヲ爲サス又ハ規則第二十五條ノ手續ヲ了セサルトキハ製造酒類ヲ封緘シ其ノ讓渡、質入、消費又ハ移出ヲ停止スヘシ
- 第二十三條 酒類製造者ニシテ酒類ヲ保存シ納稅保證物ノ免除ヲ得タルモノ其ノ酒造稅ノ一部ヲ納付シ既納稅額ニ相當スル酒類ノ解除ヲ請求シタルトキハ保存酒ノ價格未納稅額ニ對シ不足ヲ生セサル限度ニ於テ之ヲ解除スヘシ
- 第二十四條 酒造稅完納其ノ他ノ事由ニ依リ保證物ノ解除ヲ爲ストキハ左ノ各號ニ依ルヘシ
 - 一 金錢又ハ無記名國債證券ナルトキハ供託物取扱規則第六條第四號ニ依リ供託原因消滅證明書ヲ作り之ヲ受領證ニ添附シ提供書ト共ニ還付スヘシ
 - 二 還付スヘキ保證物カ記名國債ナルトキハ明治三十九年大藏省令第二十三號國債規則第四十條ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 三 土地建物ハ納稅保證物解除書、抵當權抹消登記簿託書ヲ作成シ納稅保證物提供書ヲ添ヘ當該官署ニ送付シ抹消登記ノ上ハ其ノ保證物提供書及附屬書類ヲ權利者ニ還付スヘシ

〔様法〕

- 二 酒類ノ名稱、石數、仕込ノ記號、順號、月日容器ノ番號、査定年月日
- 三 査定當時ノ石數、酒精容量及腐敗、廢棄、亡失前ニ於ケル最近ノ検査石數
- 四 移入酒其ノ他ノ物品ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ノ區分
- 五 腐敗、廢棄、亡失ニ係ル石數並其ノ算定ノ基礎、導引ノ濟否及酒精容量ノ區分
- 六 廢棄、亡失ノ日時、原因、狀況若ハ腐敗ノ原因、經過現況
- 七 酒精ノ受拂及現在石數、減耗歩合其ノ當否ニ關スル意見
- 八 腐敗廢棄物件ノ措置方法
- 九 臨檢年月日、調査官吏氏名
- 十 其ノ他必要ト認メタル事項
- 第二十八條 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ燒酎又ハ酒精ノ製造用ニ供セムトスルモノハ酒造原料品トシテ之ヲ取扱フヘシ
- 第二十九條 腐敗シタル酒類ニ對シ飲用スヘカラサル處置ヲ施サムトスルトキハ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲シ願末書ヲ作成スヘシ酒母、醗、原料用酒類ノ場合亦同シ
 - 一 酢元用ニ供スルモノニ在リテハ生酢又ハ種酢若ハ水ヲ混和シ含有酸量百分ノ一、二以上酒精量百分ノ十以下ニ歸セシムルコト
 - 二 其ノ他ノ場合ニ在リテハ酒類トシテ飲用シ能ハサル程度ニ相當ノ處置ヲ爲スコト

- 前項納稅保證ニ關スル證書類ヲ還付スルトキハ其ノ領收證ヲ徵スヘシ
- 第二十五條 保存酒類ニシテ其ノ保存ノ義務消滅シタルトキハ保存證書ヲ還付シ其ノ領收證ヲ徵スヘシ
- 第二十六條 規則第三十條ニ依リ酒造稅ヲ免除スヘキ清酒、味淋、燒酎ノ石數又ハ酒精總數ハ左ノ區分ニ依リ算定シ合位未滿ノ端數又ハ毛位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ合位又ハ毛位ニ切上クヘシ
 - 一 未タ洋引ヲ爲ササルモノナルトキハ現在石數ヨリ清酒ニ在リテハ百分ノ五以内(其ノ範圍ハ別ニ定ム)、味淋ニ在リテハ百分ノ二、燒酎ニアリテハ百分ノ一ノ洋引減量又ハ貯藏減量ヲ控除シタル石又ハ酒精總數但シ此ノ場合ニ於テ其ノ現在ノ石數又ハ酒精總數カ課稅石數又ハ課稅酒精總數ヨリ少キトキハ現在ノ石數又ハ酒精總數ニ依ルヘシ
 - 二 既ニ洋引ヲ爲シタルモノナルトキハ現在ノ石數又ハ酒精總數但シ此ノ場合ニ於テ其ノ現在ノ石數又ハ酒精總數カ課稅石數又ハ課稅酒精總數ヨリ多キトキハ課稅石數又ハ課稅酒精總數ニ依ルヘシ
- 第二十七條 支廳長ハ規則第三十一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ直ニ收稅官吏ヲシテ其ノ事實ヲ調査セシメ免除スヘキモノト認ムルトキハ廢棄、亡失ノ事由其ノ他必要ナル事項ヲ具シ關係書類ヲ添付シ俸太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 收稅官吏前項ノ事實ヲ調査シタルトキハ検査書ヲ作成スヘシ
- 前項ノ検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 製造場ノ位置及製造者ノ住所氏名
 - 二 含有酸量ヲ檢スルニハ混和液十立方「センチメートル」ヲ加ヘ(標示藥十滴ヲ流下シ仍十分ノ一定規亞爾加里液ヲ加ヘ微紅色ヲ呈スル度ニ至リテ止ム而シテ其ノ加ヘタル亞爾加里液ノ消費量十立方「センチメートル」ハ酸量百分ノ〇・六ヲ表ハスモノトシテ計算スヘシ
 - 第三十條 左ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ原料一石ニ付「フロクシ」一匁乃至二匁ヲ混和セシムヘシ
 - 一 燒酎原料用醗ノ仕込ヲ爲シタルトキ
 - 二 清酒醗又ハ査定未濟ノ濁酒ヲ燒酎原料ニ變更シタルトキ
 - 三 前二號ニ掲ケル醗又ハ査定未濟ノ濁酒ヲ以テ製成シタルモノヲ除ク外原料用酒類ヲ燒酎又ハ酒精ニ蒸餾スル爲メ其ノ使用検査ヲ爲シタルトキ
 - 食用紅ヲ使用スルトキハ其ノ五匁ヲ以テ「フロクシ」一匁ニ換算スヘシ
- 第三十一條 保存酒類ノ火入其ノ他保存上必要ナル處置ヲ施サムトスルトキ又ハ其ノ容器ヲ變換セムトスルトキハ日時ヲ指定シ立會ノ上之ヲ爲サシムヘシ但シ當該官吏ニ於テ必要ナシト認メタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 第三十二條 支廳長ハ規則第三十三條ノ申請ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ相當ト認メタルトキハ之ヲ免除シ直ニ造石數査定ノ年月日、石數、酒造稅額及洋引既未濟ノ區分等ヲ詳記シ俸太廳長官ニ報告スヘシ
- 第三十三條 支廳長ハ規則第三十四條ノ申告アリタルトキハ直ニ收稅官吏ヲシテ其ノ事實ヲ調査セシムヘシ
- 收稅官吏前項ノ事實ヲ調査シタルトキハ検査書ヲ作成スヘシ

〔様法〕

検査書ニ記載スヘキ事項ハ第二十七條第三項ノ規定ヲ準用スヘシ
第一項ノ場合ニ於テ酒類製造者其ノ酒母、醗又ハ原料用酒類ヲ管轄外
ニ移出スルトキハ支廳長ハ種類數額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ當該所
管廳ニ通知スヘシ

第三十四條 支廳長ハ毎年度四回(十二月、三月、六月、九月)酒類造石
數査定表ヲ調製シ翌月二十日迄ニ之ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ

第三十五條 收稅官吏ハ規則第三十六條、第四十條ノ規定ニ依リ酒類製
造者ニ検査又ハ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ其ノ請書ヲ徵ス
ヘシ

第三十六條 收稅官吏ハ酒類製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項
ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第三十七條 酒類製造者ニ對スル酒造稅ノ賦課徵收ニ付テハ左ノ帳簿ヲ
設備シ各所定ノ事項ヲ登記スヘシ

- 一 酒類製造見込石數帳 第一號様式
 - 二 酒類査定石數帳 第二號様式
 - 三 酒造稅繳納 第三號様式
 - 四 酒造稅納稅保證物繳納 第四號様式
 - 五 酒類製造検査簿 第五號様式
 - 六 酒類造石數査定簿 第六號様式
 - 七 酒類容器容量檢定簿 第七號様式
- 酒類製造見込高報告表ハ第八號様式、酒類造石數査定表ハ第九號様式、
抵當權設定登記簿ハ第十號様式、酒類納稅保證物解除書ハ第十一
號様式、抵當權抹消登記簿ハ第十一號様式、供託原因消滅證明書

ハ第十三號様式、酒類納稅保證物提供命令書ハ第十四號様式、差押調
書ハ第十五號様式ニ依リ調製スヘシ酒類納稅保證物提供書ハ第十六號
様式、酒類納稅保證物増補提供書ハ第十七號様式、不動産登記承諾書
ハ第十八號様式、酒類保存證書ハ第十九號様式ニ準據セシムヘシ
容器檢定簿ハ正副二冊ヲ調製シ副本ハ當業者ニ保管セシムヘシ

第三十八條 本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第六條、第十三條、第
十四條、第十六條乃至第二十條、第二十七條、第三十二條及第三十四
條ノ規定ヲ除ク外酒類製造者ニ對スル酒造稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌
スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

酒造検査ニ關スル件

大正五年四月
主第八六號内務部長通牒

- 一乃至五(省略)
- 六、査定石數及容器ノ檢定石數ハ他ノ官吏ヲシテ之ヲ檢算セシメ査定
簿、檢定簿中容器番號欄ニ小印ヲ押捺セシムヘシ
- 七、左記様式ニ依リ酒造検査表ヲ調製シ出張命令其ノ他ノ監督上ノ資料
ニ供スヘシ

〔律法〕

手帳様式 (省略)
酒造検査表 (省略)

酒類營業稅免除處分ニ關スル件

大正六年二月
主第一四三號内務部長通牒

- 樺太酒類製造營業稅規則施行細則第十一條ニ依リ酒類ノ腐敗、廢棄、亡
失ノ調査ヲ命シタル場合(同細則第十三條ノ場合モ亦之ニ準ス)ハ左ノ要
件ヲ記載シタル検査書ヲ作成セシメラレ度依命此段及通牒候也
- 一、製造場ノ位置及製造主ノ住所氏名
 - 二、酒類ノ名稱、石數、仕込ノ記號、順號、月日、容器ノ番號、査定年
月日
 - 三、最初検査又ハ査定シタル時ノ石數、酒精容量及腐敗、廢棄、亡失
前ニ於ケル最近ノ検査石數
 - 四、移入酒、其ノ他ノ物品ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲シタルモノナルトキ
ハ其ノ數量ノ區分
 - 五、腐敗、廢棄、亡失ニ係ル石數並其ノ算定ノ基礎及滓引、火入ノ濟
否、酒精容量ノ區分(滓引ノ事項ハ大正六年四月一日ヨリ適用)
 - 六、廢棄、亡失ノ日時、原因、狀況若ハ腐敗ノ原因、經過現況
 - 七、酒類ノ受拂及現在石數、減耗歩合ノ當否ニ關スル意見
 - 八、腐敗、廢棄物件ノ措置方法
 - 九、臨檢年月日

〔律法〕

規則第十八條第二號ニ該當スルモノハ其ノ承認ヲ爲ス前ニ於テ検査書ヲ
作成シ酒類ニハ封緘ヲ施シ置キ其ノ承認ノ際更ニ立會ノ上石數ヲ調査シ
不可飲ノ處置ヲ施サシメ其ノ報告書ヲ支廳長ニ提出スヘシ

樺太酒類製造營業稅規則事務取扱ニ關スル件

大正六年九月
主第二三六號内務部長通牒

- 樺太酒類製造營業稅規則第十三條第一項但書ノ證明アリタル場合ニ於テ其ノ
事實カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ大體ニ於テ理由アルモノトシ施行細
則第六條ノ二ノ規定ニ依リ相當御措置相成候様致度依命此段及通牒候也
- 一、原料腐敗廢棄又ハ亡失シ更ニ製造スルノ期間ナカリシトキ
 - 二、清酒白石以上濁酒五十石以上製造ノ見込ヲ以テ仕込ヲ爲シタルモ
原料ノ不良其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ製成歩合減少シ見込造
石數ニ達セズ更ニ製造スルノ期間ナカリシトキ

第十條 左ノ場合ニ於テハ漁業稅ヲ減免スルコトヲ得
 一 漁業法第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ漁業ノ制限、停止又ハ免許ノ取消アリタルトキ
 二 漁業時期開始前漁業權ヲ拋棄シタルトキ
 三 漁業時期一年ヲ通シテ休業スルトキ
 前項第三號ノ場合ニ於テハ漁業時期開始前納稅義務者ヨリ之ヲ樺太廳長官ニ届出ツルコトヲ要ス但シ休業認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 樺太廳長官ハ毎年四月三十日迄ニ前年ノ漁獲價額ヲ査定シ樺太廳支廳長ニ之ヲ通知ス

第十二條 前條ノ通知アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ課稅ノ標準タル漁獲價額ヲ決定シ七月三十一日迄ニ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十三條 漁業稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス
 第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限
 第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限
 漁業權消滅シタルトキハ第五條ノ二ノ場合ヲ除キ前項ノ規定ニ拘ラス一時ニ之ヲ徵收ス第三條但書ノ場合ニ於テ其ノ負債權消滅シタルトキ亦同シ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ニ拘ラス隨時漁業稅ヲ徵收スルコトヲ得
 一 第二條第二項ニ依リ漁業稅ヲ賦課スルトキ
 二 漁業時期一年ヲ通シテ休業スルノ認可ヲ受ケ又ハ其ノ届出ヲ爲シタル者其ノ漁業時期中ニ漁業ヲ爲シタルトキ

三 第七條第二項前段ニ掲タル者ノ漁獲價額ニ付漁業稅ヲ賦課スルトキ
 前項第二號ノ場合ニ於テハ納稅義務者ハ十日以内ニ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ届出ツヘシ

第十五條 漁業權ノ移轉アリタルトキハ現ニ其ノ漁業權ヲ有スル者ヨリ漁業稅ヲ徵收ス前項ノ規定ハ第三條但書ノ場合ニ於テ負債權ノ移轉アリタルトキニ之ヲ準用ス

第十六條 漁獲價額ニ付納稅義務アル者漁獲價額二分ノ一以上減損アリタルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ漁獲價額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ年十一月三十日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 前條ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ樺太廳長官ノ指揮ヲ受ケ漁獲價額二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂シ漁獲價額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘシ

第十八條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁獲價額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十九條 第十六條ノ請求アリタルトキハ樺太廳支廳長ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十條 土人漁場管理者ハ土人ノ享有スル定置漁業權又ハ區劃漁業權ヲ目的トスル負債權ノ設定、移轉又ハ消滅アリタルトキハ其ノ都度左ノ事項ヲ所轄支廳長ニ通知スヘシ
 一 免許番號
 二 新舊負債權者又ハ其ノ代表者ノ住所氏名
 三 負債權ノ設定、移轉又ハ消滅ノ別及其ノ日附

〔樺法〕

四 負債權設定ノ場合ニ其ノ存續期間

第二十一條 本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ樺太廳支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附則
 本令ハ昭和二年分漁業稅ヨリ之ヲ適用ス
 昭和二年ニ限リ第二條及第三條中四月五日トアルハ四月十九日、第二條中四月六日トアルハ四月二十日、第十一條中四月三十日トアルハ七月十日トス

第四條第一項ノ規定ニ依ル漁獲價額ノ計算ハ昭和二年分漁業稅ニ限リ前年ノ漁獲價額ニ依ル
 專用漁業ニ在リテハ組合ハ此ノ際其ノ組合員ノ住所氏名ヲ一漁業權毎ニ所轄樺太廳支廳長ニ届出ツヘシ
 前項ノ届出ニハ第七條第一項第四號及同條第二項ニ掲タル者ハ之ヲ明示スルコトヲ要ス
 第八條及第十條第二項ノ届出ハ昭和二年ニ限リ七月二十日迄ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル
 土人漁場管理者ハ土人ノ享有スル漁業權ヲ目的トスル負債權ニ付此ノ際第二十條ノ規定ニ準シ其ノ現況ヲ所轄支廳長ニ通知スヘシ

〔樺法〕

樺太廳支廳長ニ之ヲ通知ス
 樺太廳支廳長ニ之ヲ通知ス

第一條 內務部長ハ漁業權移轉ノ登録アリタルトキハ其ノ都度免許番號、移轉年月日及新舊漁業權者又ハ其ノ代表者ノ住所氏名ヲ所轄支廳長ニ通知スヘシ

第二條 毎年ノ漁獲價額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出スヘシ
 一 毎年ノ漁獲價額ハ各漁業ノ漁獲高及其ノ標準單價ニ依リ之ヲ定ム
 二 前號ニ規定スル標準單價ハ主要市場ニ於ケル平均價格ヲ基礎トシ相當ト認ムル運賃及諸掛等ヲ控除シテ之ヲ定ム
 三 前號ニ規定スル漁獲物ノ市場平均價格ヲ求メ離キトキハ水産製造物ノ市場平均價格ヨリ製造ニ必要ナル經費ヲ控除シテ之ヲ算出ス

第三條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁業稅減免ハ樺太廳長官ノ決定シ所轄支廳長ニ之ヲ通知ス

第四條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ納稅義務者ニ通知スヘシ

第五條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁業稅減免ハ樺太廳長官ノ決定シ所轄支廳長ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁業稅減免ハ樺太廳長官ノ決定シ所轄支廳長ニ之ヲ通知スヘシ

第七條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁業稅減免ハ樺太廳長官ノ決定シ所轄支廳長ニ之ヲ通知スヘシ

第八條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁業稅減免ハ樺太廳長官ノ決定シ所轄支廳長ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁業稅減免ハ樺太廳長官ノ決定シ所轄支廳長ニ之ヲ通知スヘシ

第十條 樺太廳支廳長ハ前條ノ規定ニ依リ漁業稅減免ハ樺太廳長官ノ決定シ所轄支廳長ニ之ヲ通知スヘシ

樺太漁業稅規則施行細則

昭和二年七月三日 訓令第三百二十四號

計

備考

- 一 漁場、漁業權者及賃借權者ノ數ハ各其ノ賦課シタルモノノ數ヲ揭ケ賦課セサルモノノ數ハ別ニ備考ニ記載スヘシ

● 樺太酒類出港稅法

大正元年八月十二日
法律第一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太酒類出港稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總、大、大臣副署)

樺太酒類出港稅法

- 第一條 本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ
前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造稅法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料稅法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ
- 第二條 樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造稅法、酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒精及酒精含有飲料稅法ノ造石稅ト同一ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス
- 第三條 酒類ハ命令ヲ以テ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ移出スルコトヲ得ス
- 第四條 酒類ヲ移出セムトスル者出港稅ヲ納付シタルトキハ領收證及船積免狀ヲ交付ス

計

備考

- 一 漁場、漁業權者及賃借權者ノ數ハ各其ノ賦課シタルモノノ數ヲ揭ケ賦課セサルモノノ數ハ別ニ備考ニ記載スヘシ

● 樺太酒類出港稅法

大正元年八月十二日
法律第一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル樺太酒類出港稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總、大、大臣副署)

樺太酒類出港稅法

- 第一條 本法ニ於テ酒類ト稱スルハ燒酎、酒精及酒精含有飲料ヲ謂フ
前項ニ於テ燒酎ト稱スルハ酒造稅法ニ於ケル燒酎ヲ謂ヒ酒精及酒精含有飲料ト稱スルハ酒精及酒精含有飲料稅法ニ於テ同法ヲ適用スルモノヲ謂フ
- 第二條 樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルトキハ燒酎ニ付テハ酒造稅法、酒精又ハ酒精含有飲料ニ付テハ酒精及酒精含有飲料稅法ノ造石稅ト同一ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス
- 第三條 酒類ハ命令ヲ以テ指定シタル港ニ由ルニ非サレハ移出スルコトヲ得ス
- 第四條 酒類ヲ移出セムトスル者出港稅ヲ納付シタルトキハ領收證及船積免狀ヲ交付ス

- 第五條 船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前其ノ積取石數ヲ收稅官吏ニ届出ツヘシ
- 第六條 收稅官吏又ハ警察官吏ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ出港船舶ニ臨檢スルコトヲ得
- 第七條 出港稅ヲ納付セスシテ酒類ヲ船積シ又ハ移出シタル者ハ其ノ出港稅ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓以下ルコトヲ得ス
前項ノ酒類及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス既ニ沒分シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス
- 第八條 第五條ノ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九條 收稅官吏又ハ警察官吏ノ職務ヲ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第十條 酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第七條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス
- 第十一條 前條ノ場合ニ於テ酒類ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 第十二條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 大正元年八月勅令第八號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行

● 樺太酒類出港稅法施行規則

大正元年八月二十日
勅令第九號

改正 大正二年六月勅令三二〇號

朕樺太酒類出港稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總、大、大臣副署)

- 第一條 樺太ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方へ移出スルハ開港ニ由ルヘシ
- 第二條 酒類ヲ移出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ移出港所轄樺太廳支廳ニ提出スヘシ
- 一 酒類ノ種目、數量及含有純酒精ノ容量
- 二 容器ノ種類及箇數
- 三 積載船舶ノ名稱
- 四 移出先及移出ノ日
- 五 移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

第九類 財務 第二章 租稅

● 樺太酒類出港稅法施行規則取扱手續

大正元年十一月三日
勅令第五號

改正 大正二年六月勅令七二號

- 第一條 施行規則第二條ノ申告書ハ第一號様式ニ準シ調製提出セシムヘシ
- 第二條 酒類石數ハ其ノ容器檢定済ノモノハ之ニ附記シアル石數ニ依リ査定スルモノトス但シ其ノ石數不明若ハ不當ト認ムルトキハ檢定容器ヲ用ヒサルトキハ每容器ヲ計量シ其ノ石數ヲ査定スヘシ
- 第三條 含有純酒精ノ容量ハ容器毎ニ檢査ヲ爲スヘシ
- 第四條 收稅官吏前二條ニ依リ査定ヲ了シタルトキハ酒類移出申告書ニ査定年月日、稅額ヲ記入シ署名捺印スヘシ
- 第五條 出港稅ノ徵收ハ前項ノ申告書ニ依リ調定ノ手續ヲ爲スモノトス
- 第六條 出港稅ヲ納付シタルトキハ船積免狀ヲ作製シ申告書ト契印シタル上之ヲ申告者ニ交付スヘシ

第九類 財務 第二章 租税

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ直ニ酒類容器ニ第二號様式ノ檢印ヲ爲ス
 (シ但シ容器ニ捺印シ難キトキハ布片、木札其ノ他適宜ノモノニ檢印
 シ容器ニ結著シテ封印ヲ爲スヘシ)
 第六條 船積免狀ヲ下附シタル後積載スヘキ船舶若ハ移出年月日ノ變更
 ヲ申告シタルトキハ船積免狀ヲ書換ヘ交付スヘシ
 第七條 出港稅法第五條ニ依リ船長ヨリ出アリタルトキハ申告書ト對
 照ノ上直ニ船舶ニ出張シ酒類容器ノ箇數及納稅濟檢印ノ有無ヲ檢査ス
 (ヘシ)
 前項ノ手續ヲ了シタルトキハ第三號様式ノ移出通知書ヲ調製シ之ヲ所
 轄稅務署ニ送付スヘシ
 第八條 出港稅法第六條ニ依リ船舶ニ臨檢スルトキハ船長若ハ其ノ代理
 員ヲシテ立會セシムヘシ
 第九條 船舶ノ檢査ヲ了シタルトキハ其ノ事項ヲ第四號様式ノ臨檢簿ニ
 記入シ支廳長ノ檢閱ヲ受クヘシ
 第十條 移出酒類ノ容器ニ供スル目的ヲ以テ豫メ容器ノ檢定ヲ申請スル
 モノアルトキハ便宜之ヲ檢定スヘシ
 容器ノ檢定ハ桶類ハ規定ノ測算方法ニ依リ其ノ他測算シ難キ容器ハ水
 量ヲ以テ其ノ石數ヲ定ムヘシ
 容器ノ檢定ヲ了シタルトキハ其ノ石數ヲ記載シ收稅官吏之ニ檢印スヘ
 シ
 容器ニ石數ヲ記載シ難キトキハ布片、木札其ノ他適宜ノモノニ記載シ
 容器ニ結著シテ封印ヲ爲スヘシ
 第十一條 前條ノ檢定ヲ爲シタルトキハ第五號様式ノ酒類容器檢定簿ニ

登錄シ支廳長ノ檢閱ヲ受クヘシ
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

酒類移出申告書	
酒類ノ種目及數量	
容器ノ種類及箇數	
含有純酒精ノ容量	
積載スヘキ船舶ノ名稱	
移出先地名	
移出年月日	
右御檢査ノ上船積免狀御下附相成度候也	
大正 年 月 日	住所 氏 名
樺太廳「何」支廳御中	

〔樺法〕

第二號様式



第三號様式

酒類移出通知書	
移出者ノ住所氏名 父ハ名稱	
酒類ノ種目及數量	
容器ノ種類及箇數	
含有純酒精ノ容量	
出港稅額	
積載スヘキ船舶ノ名稱	

第九類 財務 第二章 租税

〔樺法〕

移出先
 查定年月日

右大正「何」年「何」月「何」日樺太酒類出港稅法第四條ニ依リ船積
 免狀ヲ交付候ニ付及通知候也
 大正「何」年「何」月「何」日
 「何」稅務署御中
 樺太廳「何」支廳御中

第四號様式

船舶臨檢簿	
支廳長印	移出酒類
船名	種目石數
著名港地名	容器箇數
	臨檢年月日
	要者印

第五號様式

第二條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ遺石税又ハ出港税ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ遺石税又ハ出港税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求シタル者ハ其ノ遺石税又ハ出港税ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附則

醫藥用工業用酒精稅法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行後三箇月迄ニ遺石税ノ賦課ヲ受ケタル醫藥用酒精ノ税金下戻ニ關シテハ本法施行後六箇月ヲ限リ醫藥用工業用酒精稅法ヲ適用ス

●工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則

明治三十九年四月二十四日 勅令第八十六號

改正 大正五年八月勅令一〇號、六年二月二九號、一一年六月三三號、一五年五月九六號、昭三年二月二七八號

朕工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(大、大臣)

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則

第一條 酒精ヲ左ニ掲タル物品ノ製造ニ使用シタルトキハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 ハイドロ亞硫酸普達鹽類(ハイドロサルファイト)

二 エチレン及其ノハロゲン誘導體

三 タンニン酸

四 苛性加里

五 エーテル

六 醋酸エーテル

七 脂肪酸エーテル

八 樟腦

九 タクロフオルム

十 ヨードフォルム

十一 アセチルサリチル酸(アスピリン)

十二 サリチル酸フェニール(ザロール)

十三 フェナセチン

十四 モノフェニール尿素

十五 硫酸キニーネ

十六 鹽酸キニーネ

十七 エチル炭酸キニーネ(オイヒニン)

十八 炭酸グアヤコール(ゾオタール)

十九 硫酸アトロピン

二十 アローム樟腦

〔釋法〕

二十一 抱水クロラール

二十二 ヘキサメチレンテトラアミン(ウロトロピン)

二十三 プロテイン銀(プロタルゴール)

二十四 サルダアルサン類

二十五 ヴイタミン類

二十六 チアスターゼ類

二十七 ギグタリス製劑

二十八 クロールエチール

二十九 プロームエチール

三十 ヨードエチール

三十一 エチール硫酸鹽類

三十二 クロール炭酸エチール

三十三 ベンチヂン

三十四 トリヂン

三十五 エチールアニリン

三十六 パラフェニレンダイアミン(パラミン)

三十七 サルファアアリユ

三十八 カーバゾールダアットブリユ(ヒドロソブリユ)

三十九 アリザリンアリユ

四十 アンストラセン

四十一 プロームインヂゴ

四十二 テトラメチルチアミノベンゾフェノン(ミヒラー氏ケトン)

四十三 ローダミン

〔釋法〕

四十四 アシッドヴァイオレット

四十五 龍腦

四十六 シトロネロール

四十七 ゼラニオール

四十八 外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液

四十九 外國ニ輸出スル煙草香料

五十 食酢

五十一 ヴァニシユ(ニス)

五十二 コロデオ(瓦斯マントル、寫眞材料、寫眞製版若ハ擬革ノ製造又ハ塗料ニ供スルモノニ限ル)

五十三 セリユロイド

五十四 石鹼

五十五 火柴

五十六 チフェニールエチール尿素(セントラリット)

五十七 燃料用變性酒精

五十八 礦油

五十九 外國ニ輸出スル擬眞珠

第二條 酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタル者ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第二條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三條 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法第一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲ス爲酒精使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ數量、使用ノ目的、場所及日時ヲ定メ所轄稅務署ニ申請スヘシ

第四條 前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ハ酒精ノ使用前其ノ數量及

含有純酒精ノ容量ヲ檢定シ使用ノ承認ヲ與フヘシ但シ申請ノ場所及日時ニ於テ其ノ目的ニ從ヒ使用セスト認ムルトキハ其ノ承認ヲ取消スコトヲ得

當該官吏ハ前項ニ依リ承認ヲ與ヘタル酒精ヲ使用スル場所ニ就キ酒精、酒精ト混和スヘキ物品、殘渣、器具、器械及帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル方法ヲ施スコトヲ得

當業者前項ノ檢査又ハ處分ヲ拒ムトキハ當該官吏ハ既ニ與ヘタル承認ヲ取消スコトヲ得

第五條 酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用スルニ際シ作業中酒精ノ分證シタルモノアルトキハ稅務署ニ申出テ其ノ數量及含有純酒精ノ容量ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ分證シタル酒精ノ數量ヲ控除シタルモノヲ以テ使用數量トス

第六條 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料稅法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スル申請書ハ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ樽太酒精出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ之ヲ樽太廳ニ提出スヘシ

酒精ヲ外國ニ輸出スル香水其ノ他ノ化粧液、煙草香料又ハ製菓珠ノ製造用ニ供シ金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ添付スヘシ

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料稅法第一條ニ依リ樽太酒精出港稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精ヲ第一條ノ工業用ニ使用シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スヘシ

● 骨牌稅法

明治三十五年四月五日 法律第四十四號

改正 大正五年三月法律二〇號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル骨牌稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

骨牌稅法

第一條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所毎ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇所毎ニ之ヲ受クヘシ

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條 收稅官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス

第三條 (削除)

第四條 骨牌ニハ一組毎ニ麻重ニ在リテハ三圓、其ノ他ニ在リテハ五十錢ノ稅ヲ課ス

第五條 骨牌稅ハ骨牌ノ包裝ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第六條 骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間内又ハ稅關若ハ保稅倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裝ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第七條 貼用印紙ニハ印紙面ヨリ他所ニカケ消印ヲ爲スヘシ

第八條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第九條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六

請求スル場合ニ於テハ第一項ノ申請書ニ酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ヲ政府ノ火藥製造用又ハ煙草醱酵用ニ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スヘシ

第七條 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料稅法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二 使用シタル酒精ノ數量、使用ノ目的及使用ノ日

三 政府ニ供給シタル酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ數量及供給ノ日

四 製品アルトキハ其ノ種類、數量及其ノ製造ノ日

五 作業中酒精ノ分證シタルモノアルトキハ其ノ數量及含有純酒精ノ容量

六 殘渣アルトキハ其ノ種類、數量及處理ノ顛末

第八條 當該官吏ハ第一條ノ工業用ニ酒精ヲ使用スル者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第九條 本令中稅務署トアルハ樽太ニ在リテハ樽太廳支廳トス

附則 本令ハ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治三十九年五月十四日ヨリ施行)

條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十條 相當印紙ノ貼用ナキ骨牌、第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 收稅官吏ハ骨牌ノ製造所、販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌稅ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セ

第十三條 (削除)

第十四條 免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ販賣ヲ爲シタル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十六條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ稅額高二十倍ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ稅額高二十倍ノ金額十圓ニ達セサルトキハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ五百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ

之ヲ讓渡シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ヲ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ「不論罪」及「減輕」(再犯加重)、「數罪俱發」ノ例ヲ用キス但シ刑法(第七十五條第一項)ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條 本法ハ伊呂波波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

第二十二條 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル骨牌ハ本法ト同一又ハ之ヨリ高キ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ骨牌ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附則 第二十二條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ場所

ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條 本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以内ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十五條 本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條第五條ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ第六條ノ裝置及第七條ノ消印ヲ爲スヘシ

●登録税法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件

大正十年四月二十七日 勅令第七十一號

朕登録税法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

登録税法ハ第三條、第四條、第五條、第六條ノ二第一項第三號、第八條乃至第十三條及(第十六條第一項第一號第二號)ヲ除キ之ヲ樺太ニ施行ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年勅令第二百五十六號中「若ハ届出ヲ爲シ又ハ登録ヲ受ル者」ヲ

「又ハ届出ヲ爲ス者」ニ、「若ハ申請ヲ爲シ又ハ登録ヲ受クル者」ヲ「又ハ申請ヲ爲ス者」ニ改ム

●登録税法(抄録)

明治二十九年三月二十八日 法律第二十七號

改正 明三〇年三月法律三號、三二年三月六〇號、八三號、三三年三月四四號、三四年四月二六號、三五年二月八號、三八年一月九號、三月五七號、五八號、三九年四月三五號、四二年三月一四號、四月三一號、四三年三月一一號、六月六四號、六三年三月二一號、七年三月一四號、一一年四月四六號、一四年三月二一號、昭二年三月六號、四年四月六三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登録税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總、大、大臣副署)

登録税法

第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 相續ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ五
- 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十五

三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ三十三

四 所有權ノ保存 不動産價格 千分ノ五

五 共有物ノ分割 不動産價格 千分ノ五

六 地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得 不動産價格 千分ノ一

存續期間十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ二

同二十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ四

同三十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ七

同五十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ十

同七十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ十五

同百年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ二十

同百年ヲ超ユルモノ 不動産價格 千分ノ一

存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ一

存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條若ハ第二百七十八條ノ規定ノ適用アルモノ又ハ借地法第二條第一項ノ規定ノ適用アルモノ 不動産價格 千分ノ四

相續ニ因ル取得ニシテ存續期間三十年ヲ超ユルモノ 不動産價格 千分ノ五

權利移轉ニ因ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス

七 地役權ノ取得 要役地價格 千分ノ一

八 華族世襲財産ノ設定 不動産價格 千分ノ二十五

九 先取特權ノ保存又ハ取得 債權金額又ハ不動産千分ノ五・五 工事費用算金額

- 十 實權、抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ五・五
- 十一 信託ノ登記 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ四
所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ二
- 十二 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ五・五
- 十三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四
- 十四 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五
- 十五 相續財產ノ分繼 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ五・五
所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一
- 十六 消納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサ
ルモノ 債權金額 千分ノ四
- 十七 抹消シタル登記ノ回復 不動産每一箇 金四十錢
- 十八 假登記 不動産每一箇 金四十錢
- 十九 附記登記 不動産每一箇 金二十錢
但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
- 二十 登記ノ更正、變更又ハ抹消 不動産每一箇 金二十錢
但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
- 第三條ノ二 信託財產タル不動産又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場
合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘ
シ

- 一 委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委
託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託 不動産價格 千分ノ四
船舶 船舶價格 千分ノ三
- 二 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者
以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財產
ノ處分ヲ目的トスルモノ 不動産價格 千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタ
ル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五
- 三 委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又
ハ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者ト
カ收益ノ受益者ナル信託 不動産價格 千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタ
ル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五
- 船舶價格 千分ノ三十五
- 前項第一號ノ信託ニ付信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前項第二號又ハ
第三號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託
者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前項第二號又ハ第三號ノ規定ヲ適用ス
- 第三條ノ三 前條第一項各號ニ該當セサル信託（委託者カ收益ノ受益者
ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者

- 又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財產ノ管理ヲ目的トスルモノ及委託
者カ信託利益ノ全部ヲ受テ（キ信託）ニ因リ不動産又ハ船舶ヲ委託
者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ登錄稅ヲ
課セス但シ信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前條第一項各號ノ信託ニ該
當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ
登記ト看做シ前條ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 第三條ノ四 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト
委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託
財產タル不動産又ハ船舶ノ管理ヲ目的トスルモノニ付テハ元本ヲ受託
者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ
付テハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 不動産價格 千分ノ四十五
但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シ
タル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十
- 五 船舶 船舶價格 千分ノ三十五
受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ不動産又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケ
ル所有權取得ノ登記ニ付テハ前項ニ該當スル場合ノ外登錄稅ヲ課セス
- 第三條ノ五 鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ
區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
- 一ノ二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一
- 二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

- 三 登錄ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓
- 第三條ノ六 工場財團登記簿、鐵業財團登記簿又ハ漁業財團登記簿ニ登
記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
- 二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一
- 三 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
- 四 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一
- 五 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ一
- 六 消納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサル
モノ 債權金額 千分ノ一
- 七 抹消シタル登記ノ回復 每一件 金二圓
- 八 假登記 每一件 金二圓
- 九 附記登記 每一件 金二圓
- 十 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓
- 第六條 商事會社其ノ他權利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキ
ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ
場合ニ於テ稅金額二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス
- 一 合名會社、合資會社設立 財產ヲ目的トス 千分ノ五
ル出資ノ價格
二 合名會社、合資會社出資増加 財產ヲ目的トス 千分ノ五
ル出資ノ價格
三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ五
四 株式會社資本増加 增資拂込株金額 千分ノ五
五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 增資拂込株金額 千分ノ五

第九類 財務 第二章 租稅

- 六 株式合資會社設立 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格 千分ノ五
- 七 株式合資會社資本増加 増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格 千分ノ五
- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ五
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格 千分ノ一
但シ合併ニ因リ消滅シタル會社又ハ組織變更ヲ爲シタル會社ノ合併當時又ハ組織變更當時ノ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五
- 十 合併ニ因ル會社資本ノ増加 増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格 千分ノ一
但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五
- 十一 社債又ハ第二回以後ノ社債拂込 商法第二百四條ノ拂込アリタル日(賣出ノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出満了ノ日)ヨリ最終ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ 毎回拂込金額 千分ノ一
同三年以下ノモノ 毎回拂込金額 千分ノ二
同三年ヲ超ユルモノ 毎回拂込金額 千分ノ三
但シ産業債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券又ハ東洋拓殖債券ニ付テハ千分ノ二

〔釋法〕

- 十二 支店設置 業債券又ハ東洋拓殖債券ニ付テハ千分ノ二 毎一個所 金二十圓
- 十三 本店又ハ支店ノ移轉 毎一件 金十圓
- 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 毎一件 金十圓
- 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 毎一件 金十圓
但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
- 十六 登記ノ更正又ハ抹消 毎一件 金十圓
- 十六ノ二 合名會社、合資會社設立ノ取消 毎一件 金七圓
- 十七 解散 毎一件 金七圓
- 十八 清算人ノ選任、解任又ハ變更 毎一件 金二圓
- 十九 清算ノ結了 毎一件 金二圓
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金二圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキ亦同シ
- 第六條ノ二 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 商號ノ新設又ハ取得 毎一件 金十圓
二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅

〔釋法〕

- 四 商法第五條第七條ニ依ル登記 毎一件 金十圓
- 五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 毎一件 金五圓
- 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 毎一件 金五圓
- 七 登記ノ更正又ハ抹消 毎一件 金二圓
支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第七條 左ノ事項ニ付キ登録士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 新規登録 金二十圓
二 登録換 金十圓
三 取消ノ請求 金一圓
- 第十四條 營業權ニ關シ營業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 試掘權ノ設定 毎一件 金百圓
二 試掘權ノ變更 増區又ハ増減區 毎一件 金四十五圓
減區 毎一件 金十圓
三 試掘權ノ移轉 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 毎一件 金十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 毎一件 金四十五圓

第九類 財務 第二章 租稅

- 四 探掘權ノ設定 新規登録 毎一件 金二百圓
續區合併 毎一件 金五十圓
續區分割 設定續區 毎一箇 金五十圓
- 五 探掘權ノ變更 續區訂正 毎一件 金五十圓
増區又ハ増減區 毎一件 金百圓
減區 毎一件 金二十圓
- 六 探掘權ノ移轉 相續 毎一件 金二十圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 毎一件 金百圓
- 七 探掘權ノ設定 新規登録 債權金額 千分ノ五・五
營業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定 毎一件 金五圓
- 八 順位ノ變更ニ因ル探掘權ノ變更 毎一件 金十圓
- 九 探掘權ノ移轉 相續 毎一件 金五圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉 毎一件 金十圓
- 十 信託ノ登録 毎一件 金十圓
- 十一 共同營業權者ノ脱退 毎一件 金五圓
- 十二 消納處分以外ノ原因ニ因ル營業權又ハ探掘權ノ處分ノ制限

- 十三 廢業ニ因ル礦業權ノ消滅 債權金額 千分ノ四
- 十四 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五圓
- 十五 假登録 每一件 金四十錢
- 十六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十五條 砂礦業ニ關シ砂礦業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 砂礦權ノ設定 採取區域 河床ハ每二里迄 金十五圓
 - 新規登録 其ノ他ハ每十萬坪迄 金三圓
 - 砂礦區合併 每一件 金三圓
 - 砂礦區分割 設定砂礦區每一箇 金三圓
 - 二 砂礦權ノ變更 採取區域 河床ハ每二里迄 金十五圓
 - 增區 其ノ他ハ每十萬坪迄 金一圓
 - 減區 但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス 金一圓
 - 三 砂礦權ノ移轉 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
 - 相續 每一件 金五圓
 - 四 抵當權ノ設定 新規登録 債權金額 千分ノ五・五
 - 砂礦區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂礦法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
 - 五 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金五圓

- 六 抵當權ノ移轉 每一件 金十圓
- 相續 每一件 金五圓
- 七 信託ノ登録 每一件 金十圓
- 八 海納處分以外ノ原因ニ因ル砂礦權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 九 廢業ニ因ル砂礦權ノ消滅 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金一圓
- 十 假登録 每一件 金四十錢
- 十一 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金四十錢
- 十二 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 漁業權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
 - 二 漁業權ノ持分ノ移轉 相續 每一件 金四十錢
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 三 入漁權ノ設立 每一件 金三圓
 - 四 入漁權ノ保存 每一件 金五十錢
 - 五 入漁權ノ移轉 相續 每一件 金五十錢

〔釋法〕

六 入漁權ノ持分ノ移轉 每一件 金二圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件 金二十錢

七 賃借權ノ取得 每一件 金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件 金五十錢

八 先取特權ノ保存又ハ取得 債權金額又ハ工事費用豫算金額 千分ノ五・五

抵當權ノ設定又ハ移轉

債權金額 千分ノ五・五

九 設定 債權金額 千分ノ五・五

相續

每一件 金一圓

十 信託ノ登録 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓

信託ノ登録

每一件 金二圓

十一 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ五・五

假差押、假處分

債權金額 千分ノ四

十二 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五

海納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ

債權金額 千分ノ四

十五 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金四十錢

假登録

每一件 金四十錢

十七 附記登録 每一件 金二十錢

登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件 金二十錢

第十六條 法人ノ合併ニ因ル不動產又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登

第九類 財務 第二章 租稅

第九類 財務 第二章 租稅

〔釋法〕

記ヲ受クルトキハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

第十六條ノ二 債權金額ニ依リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス先取特權、賃借、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登録スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ賃借若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債權金額ト看做ス

第十六條ノ三 管轄ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動産登記法第二百十二條ノ規定ニ依リ登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十六條ノ四 同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、賃借又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記登錄ヲ受クル場合ニ於ケル登録稅ニ關シテハ前條ノ規定ニ準シ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條 左ニ掲ケタルモノニハ登録稅ヲ課セス但シ第八號、第九號、第

- 十一號、第十二號及第十四號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
- 二 社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記
- 三 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ニ關スル登記
- 四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
- 五 市町村ノ一部ニ屬スル財產ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
- 六 市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以上ノ市町村ニ互ルモノヲ消滅セシムル爲メ市町村又ハ其ノ一部カ其ノ入會財產ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財產ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記
- 七 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付産業組合法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記
- 八 自作農ノ創設維持ノ爲ニスル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記
- 九 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會カ自作農ノ創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

- 十 北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
- 十一 住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記
- 十二 北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ヨリ自作農創設維持ノ爲資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記
- 十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記
- 十四 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記
- 第十九條ノ二 信託ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録稅ヲ課セス
 - 一 委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登録
 - 二 受益者又ハ歸屬權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登録但シ不動産又ハ船舶ノ所有權取得ニ付テハ第三條ノ四ニ依ル
 - 三 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ權利取得ノ登記又ハ登録

〔轉法〕

看做シ登録稅ヲ課ス

- 第十九條ノ三 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録稅ヲ課セス
- 第十九條ノ四 外國カ其ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シテ受ケル登記ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ登録稅ヲ免除ス但シ當該國カ帝國ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關スル登記ニ付同様ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第十九條ノ五 登記所カ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ
- 第十九條ノ六 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得
- 前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課稅標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セザルトキハ其ノ平均價格ニ依ル評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課稅標準ノ價格ヲ定ム
- 第十九條ノ七 前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
- 異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 第十九條ノ八 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル稅額ト認定價格ニ相當スル稅額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ
- 第十九條ノ九 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス

〔轉法〕

- 第十九條ノ十 評價人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク
- 第十九條ノ十一 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十九條ノ十二 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
- 附則
第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
- 第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 附則 (明治四十二年法律第十四號)
本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 本法施行前砂磧採取法ニ依リ砂磧業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ手数料ヲ納メタル者ハ砂磧法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登録ニ付更ニ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス砂磧法第二十七條第一項ニ依ル登録ニ付亦同シ
- 附則 (昭和二年法律第六號)
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ改正規定ハ信託財產ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録稅ヲ課セラレタル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

●印紙稅法 明治三十二年三月十日 法律第五十四號

改正 明三十四年四月法律一六號、四〇年三月二七號、四二年五月四二號、四三年三月一四號、四四年三月四一號、大一年四月四七號、一二年三月一二號、一四年三月二二號、昭二年三月七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總、大、大臣副署)

印紙稅法

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 (刪除)

第三條 (刪除)

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一册一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

- 一 不動産、鐵道財團、軌道財團又ハ船舶ノ所有權移轉ニ關スル證書 記載金高五十圓以下ノモノ 二錢
- 二 消費貸借ニ關スル證書 同五百圓以下ノモノ 十錢
- 三 請負ニ關スル證書 同千圓以下ノモノ 二十錢
- 四 運送ニ關スル證書 同一萬圓以下ノモノ 五十錢
- 五 備船契約書 同一萬圓ヲ超ユルモノ 一圓
- 六 委任狀 記載金高ナキモノ 二錢

[釋法]

三錢

- 二十五 定款又ハ組合契約書
 - 二十六 權利ノ變更ニ關スル證書
 - 二十七 追認又ハ承認ニ關スル證書
 - 二十八 商品切手
 - 二十九 受取書
 - 三十 質權、抵當權ニ關スル證書
 - 三十一 前各號以外ノ證書
 - 三十二 預金通帳
 - 三十三 前號以外ノ通帳
 - 三十四 判取帳
- 證書ニ金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス
- 第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
- 一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿
 - 二 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
 - 三 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
 - 四 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳又ハ公署ニ提出スル證書
 - 五 小切手
 - 六 產業組合ノ發スル出資證券若ハ貯金通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券
 - 七 記載金高十圓未満ノ約束手形及爲替手形

- 八 貯金通帳、積金通帳又ハ積金證書(貯蓄銀行法第一條ノ貯金又ハ積金ニ付發スルモノニ限ル)
 - 九 產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未満ノモノ
 - 十 記載金高一圓未満ノ物品切手
 - 十一 賣買仕切書
 - 十二 物品又ハ有價證券ノ賣買契約證書
 - 十三 送狀
 - 十四 記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
 - 十五 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約書
 - 十六 手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書
 - 十七 株券又ハ債券ニ記載シタル讓渡ノ證明書
 - 十八 手形ノ引受及保證
 - 十九 手形又ハ證券ノ拒絕證書
 - 二十 手形又ハ證券ノ複本及謄本
 - 二十一 農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券
 - 二十二 質札又ハ質物通帳(質屋營業者ノ發スルモノニ限ル)
 - 二十三 勤務通帳
 - 二十四 乘車券、乘船券又ハ各種入場券
 - 二十五 第四條第一號乃至第五號及第三十一號ノ證書ニシテ記載金高十圓未満ノモノ
- 第六條 印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代

[釋法]

記シ當該廳長ノ査閲ニ供スヘシ但シ同一ノ廳長ニ在動スル收稅官吏ハ便宜同一ノ帳簿ヲ共用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

印紙稅檢査簿

(表 紙)

大正	[何]年度
印紙稅檢査簿	
[何]支廳	

目次

頁	標目
	[何]町
	[何]村

[標法]

町村名	業名	受人名	検査月日	検査物件數量					検査官 吏認印	摘要
				通帳	判取帳	仕切書	送状	計		

備考

一本簿ハ町村別ニ口座ヲ設ケ記載シ年度ノ終ニ於テ之ニ所轄計ヲ附スヘシ
二業名ノ欄内ニハ數種兼業ノ者ハ其ノ重ナル業名ヲ記載スヘシ

第九類 財務 第二章 租稅

●砂鑛區稅法

明治四十三年三月二十五日
法律第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂鑛區稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總大臣副署)

第一條 砂金採取ヲ目的トスル砂鑛權者ニハ左ノ割合ニ依リ毎年砂鑛區稅ヲ課ス

河床 砂鑛區域一町毎ニ 金三十錢

河床ニ非サルモノ 砂鑛區域一千坪毎ニ 金三十錢

前項ノ場合ニ於テ一町未滿又ハ一千坪未滿ノ端數ハ一町又ハ一千坪トシテ計算ス

第二條 砂鑛區稅ノ賦課徵收ニ關シテハ鑛區稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條 北海道、府縣及市町村ハ砂鑛區稅ニ對シ百分ノ十以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中砂金採取地稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件

改正 大正九年八月七日

法律第五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
左ニ掲クル物品ニシテ内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スルモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ内國稅ヲ免除若ハ拂戻シ又ハ交付金ヲ交付スルコトヲ得
酒類、麥酒、酒精、酒精含有飲料、清涼飲料、砂糖、糖蜜、糖水、織物、織物製品、骨牌

附則

本法ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年法律第二十三號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前朝鮮ニ移出シタル糖油、賣藥及賣藥類似品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件

大正九年八月二十六日
勅令第三百十一號

改正 大正九年六月勅令二九〇號、一五年三月三九號
朕大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
大正九年法律第五十一號ニ依ル内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅ノ免除若ハ拂戻又ハ交付金ノ交付ニ關シテハ輸出免狀ニ關スル規定ヲ除クノ外外國ニ輸出スル當該物品ニ付定メタル法令ヲ準用ス但シ輸出手續ニ關スル稅關ノ事務ハ移出ヲ爲サムトスル地ノ所轄稅務署ニ行フ

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ對スル交付金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ規定ニ依ルノ外朝鮮ニ於ケル稅關ノ移入免狀、保稅倉庫庫入免狀若ハ假置場移入免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ當該稅務署ニ提出スヘシ但シ郵便ニ依リ移出シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ骨牌稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件

大正十一年四月十八日
法律第五十號

(樺法)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關シテハ關稅法、關稅定率法、噸稅法及輸出貨物ニ關シ内國稅ヲ免除シ又ハ内國稅ニ相當スル金額ヲ下戻シ若ハ交付スルコトヲ定メタル規定ヲ適用セス

(總、大、大臣副署)

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年勅令第二百九十四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)

本法施行前南洋群島ヨリ輸出シタル貨物ノ輸入ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前南洋群島ニ輸出シタル貨物ニ對スル稅金ノ免除又ハ稅金ニ相當スル金額ノ下戻若ハ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●木材流送ニ關スル水面使用料徵收規程

昭和四年四月十日
勅令第九號

木材流送ニ關スル水面使用料徵收規程左ノ通定ム

第一條 木材流送ノ爲河川、湖沼等ノ水面使用者ニ對シテハ使用料ヲ徵收ス

●輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件

昭和七年六月十五日
法律第四號

改正 昭八年三月法律二七號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル輸入稅ノ從量稅率ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
關稅定率法別表輸入稅率ニ定メタル從量稅率ハ當分ノ内之ヲ其ノ百分ノ百三十五トス但シ同輸入稅率ニ掲グル物品ニシテ本法ノ別表ニ掲グルモノノ從量稅率ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ニ依ル從量稅率ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

(樺法)

輸入税 品 名

- 一六 小麦
- 一八 高粱
- 一九 玉蜀黍
- 二二 穀粉及澱粉類
 - 一 小麦粉
- 五三 バター、人造バター、及びギー
- 五五 コンデンスドミルク
- 一一四 パラフィン
 - 一 融解點攝氏四十五度ヲ超エサルモノ
 - 乙 其ノ他
- 一四九 黄磷、赤磷及硫化磷
- 一七六 クロール酸加里
- 二五五 カーボンブラツク
- 二五九 ビツチ及アスファルト
- 二五九ノ二 コールタール、ビツチ又ハアスファルトノ製品ニシテ道路修築用ノモノ
- 三六二 印刷料紙
 - 二 其ノ他
 - 乙 其ノ他
 - イ 一平方メートルノ重層五十八グラムヲ超エサルモノ

四一八 石絨及別號ニ掲ケサル石絨製品

- 二 絲
- 三 板
 - 甲 護謨入ノモノ
 - 四 其ノ他
- 四六二 鐵(別號ニ掲ケタル特殊鋼ヲ除ク)
 - 一 塊及錠
 - 甲 銑鐵
 - 四 ワイヤロッド(卷キタルモノ)
- 四六三ノ二 マグネシウム
- 四九九 乃物(別號ニ掲ケサルモノ)
 - 二 其ノ他
 - 丙 剃刀
 - ロ 其ノ他
 - ロノ一 安全剃刀用ノ刃
- 五二七 懐中時計部分品
 - 八 其ノ他
 - 乙 其ノ他
 - イ 地 板
 - ロ 調整輪
 - ハ 制動杆
 - ニ 受板
 - ホ 撥條匣

[棒法]

五四九 醫療器、オートマチックタインストルーメント及同部分品

(別號ニ掲ケサルモノ)

一 陶磁

甲 金屬製ノ釘ヲ用キタルモノ

六〇五 機械部分品(別號ニ掲ケサルモノ)

二 ロール及ローラー

甲 鐵製ノモノ

甲ノ二 其ノ他

ホ 其ノ他

十 炭(金屬製ノモノ)

六〇七ノ三 鋸齒手

六二二 木材

- 一 單ニ切り、挽キ又ハ割リタルモノ
- 己 バイン、フアー、シダー其ノ他ノ針葉樹
- 己ノ五 其ノ他(ドグラスフアー等)
- イ 厚六十ミリメートルヲ超エサルモノ
- ロ 厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ
- ハ 厚二百ミリメートルヲ超エタルモノ
- ニ 丸太及割材
- ニノ二 長十メートルヲ超エ、末口ノ直径三十センチメートルヲ超エサルモノ
- ニノ三 其ノ他
- 癸 其ノ他

[棒法]

六三二ノ二 附及故ノセリユロイド(改造用ノミニ適スルモノ)

- イ 厚二百ミリメートルヲ超エサルモノ
- ロ 其ノ他(丸太及割材ヲ含ム)

第二節 租稅徵收

●國稅徵收法ヲ樺太ニ施行ノ件

大正八年八月四日
勅令第三百六十七號

朕國稅徵收法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總、大臣)

國稅徵收法ハ同法第五條及第八條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ樺太ニ施行ス
附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年三月二十八日
勅令第五十三號

朕國稅徵收法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總、大臣)

國稅徵收法中未タ樺太ニ施行セサル部分ハ之ヲ樺太ニ施行ス
附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國稅徵收法

明治三十年三月二十九日
法律第二十一號

改正 明三十五年三月法律三六號、三十八年三月四六號、四十四年三月三七號、大正三年三月
一二號、四年三月一六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總、大、
大臣副署)

國稅徵收法
第一章 總則

- 第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル
- 第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス
- 第三條 納稅人ノ財產上ニ實權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ實權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス
- 第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得
 - 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受クルトキ
 - 三 強制執行ヲ受クルトキ
 - 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 五 競賣ノ開始アリタルトキ
 - 六 法人力解散ヲ爲シタルトキ
 - 七 納稅人脫稅又ハ逃稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ
- 第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス
- 督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先

〔律法〕

〔律法〕

納稅管理人アルトキハ納稅ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徵收ノ費用トシテ其ノ徵收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其ノ市町村ニ交付ス

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

- チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料、延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス
- 第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 國籍喪失ニ因リ相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス
- 第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料、延滞金及滯納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス
- 第四條ノ五 同年ノ所得稅、地租、營業收益稅、資本利子稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得
- 第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル
- 第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手
數料、延滞金ヲ徵收ス

第三章 滞納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ財産ヲ差押フヘシ

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料、延滞金及稅
金ヲ完納セザルトキ

二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國
稅納付ノ告知ヲ受ケ稅金ヲ完納セザルトキ

第十一條 收稅官吏滞納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受
ケタル官吏タルノ證據ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、延滞金、滞納處分
費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ
滞納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ賣權ノ設定セラレタ
ル物件アルトキハ賣權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ賣權者ハ賣物ヲ收
稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ
就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前提
テニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意
ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ
其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一 一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具
及厨具
二 滞納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
七 勳章其ノ他名譽ノ章票
八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセザルモノ
第十條 左ニ掲クル物件ハ他ニ督促手數料、延滞金、滞納處分費及稅
金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ
爲ササルモノトス
一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
二 職業ニ必要ナル器具及材料
第十三條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノ
トス
第十四條 滞納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケ
ラルルコトナシ
第十五條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滞納者ノ家屋、倉庫及債
ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、債限ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコト
ヲ得滞納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦
同シ

〔釋法〕

第三者ノ家屋、倉庫及債限ニ滞納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ
收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得
前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ債限ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限
ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滞納者若ハ前條ニ掲ケタ
ル第三者又ハ其ノ家族人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不
在ナルトキ又ハ立會ニ應セザルトキハ成年者二人以上又ハ市町村吏員
市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ區長及其ノ附屬吏員 若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシム
ヘシ

第二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差
押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滞納者又ハ第三者ヲシ
テ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以
テ差押ヲ明白ニスヘシ

第二十三條 一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知
スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手數料、延滞金、滞納處分費
及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十三條ノ二 債權及所有權以外ノ財産權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官
吏ハ之ヲ其ノ權利者ニ通知スヘシ

前項ノ財産權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテ
ハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ屬託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付
テモ亦同シ

第九類 財務 第二章 租稅

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ
登記ヲ所轄登記所ニ屬託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同
シ

差押ノ爲不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分
ノ登記ヲ所轄登記所ニ屬託スヘシ其ノ合併又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦
同シ

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十四條 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二十三條ノ一ニ依
リ收稅官吏力第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公
賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セザルトキハ
其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上タルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ
隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員
ハ直接ト間接ト問ハス其ノ賣却物件ヲ買受タルコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ財産ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用
及通信費トス

促手敷料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ控除シテ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル債權、抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手敷料、延滞金、滞納處分費ヲ徴シテ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シテ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ交付ス

賣却シタル物件抵當證券ヲ發行シタル抵當權ノ目的物ニシテ第三條ノ證明ヲ爲スヘキ抵當證券所持人分明ナラサル場合ニ於テ其ノ代金ヨリ督促手敷料、延滞金及滞納處分費ヲ徴シタル殘額カ債權者ニ交付スヘキ債務額及徴收スヘキ税金ニ充タサルトキハ其ノ抵當證券所持人ニ交付スヘキ金額ハ之ヲ保管ス此ノ場合ニ於テ債權ノ辨濟期限後四月ヲ過クルモ尙其ノ證明ヲ爲ササルトキハ其ノ保管シタル金額ヲ税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ抵當證券所持人ニ交付ス物件ノ賣却後二年内ニ其ノ證明ヲ爲ササルトキ亦同シ

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手敷料、延滞金、滞納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滞納者ニ交付スヘキ金額ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滞納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ納稅義務及督促手敷料、延滞金、滞納處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第三十二條 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ破産脫離

シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス
差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ破産脫離費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一尋ヲ減ス
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス
第五節 附則
第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
〔沖繩縣〕及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ニ施行セス
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス
〔北海道水産物營業人組合〕ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス
第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●國稅徵收法施行規則

明治三十五年四月十一日
勅令第三百三十五號

改正 明三十八年三月勅令六七號、四十四年二月二八號、大九年二月五八號、一
一〇年三月一七〇號、昭六年七月一八八號

〔律法〕

國稅徵收法施行規則 (總、大、大臣勅令)

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知書ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ
前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添へ添次之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ但シ納期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

〔律法〕

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滯納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲ケタルモノニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 造石敷査定酒、酒類、酒精並酒精含有飲料ノ造石稅及造石敷査定酒ノ麥酒稅

三 製造場外ニ移出セラレタル清涼飲料ニ對スル清涼飲料稅

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ

第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手敷料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十一條ノ二 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ税金額百圓ニ付

一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徴收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 納稅告知書一通ノ税金額二十圓未滿ナルトキ
- 二 納期ヲ繰上ケ徴收ヲ爲ストキ
- 三 納稅者ノ住所ハ居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徴收セス

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手数料、延滞金、滞納處分費及税金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ發行シタル抵當權ニ付其ノ證券所持人分明ナラサルトキハ債務者又ハ證券ノ讓渡人等ニ付調査シ尙分明ナラサルトキハ前項ニ依リ通知スヘキ事項ヲ公告スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財産管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産

二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項

三 入札又ハ競賣ノ場所、日時

四 開札ノ場所、日時

五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

加入保證金又ハ契約保證金ハ國債ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金又ハ之ニ代用シタル國債ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滞納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ前項ノ期間内ニ滞納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滞納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ

所在地ノ收稅官吏ニ滞納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滞納者ニ屬スル持分ニ就キ滞納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノトシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ

- 一 滞納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 差押財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作りタル場所、年月日

國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

收稅官吏差押調書ヲ作りタルトキハ其ノ原本ヲ滞納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財産權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手数料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解除スヘシ

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滞納者ノ氏名及住所若ハ居所

追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破産管財人又ハ清算人ニ督促手数料、延滞金、滞納處分費及滞納税金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス

第三十條 滞納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滞納者ニ交付スヘシ

第三十一條 納稅告知督促及滞納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 市制町村制ヲ施行セサル地方稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

附則

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク

稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅酒類、酒精、酒精含有飲料並ニ酒油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除ク